

6. 生活面などに関する意識

(1) 理想とする女性のライフコース

Q7-1. 一般的に女性が職業を持つことについて、あなたが理想と考えるライフコースは、以下のどれにあたりますか。(ひとつだけ)

理想とする女性のライフコースは、性別にみると、男女ともに、「結婚や出産を機に職業をやめるが、子どもが大きくなったら再び職業を持つ」が最も多く、男性で41.2%、女性で45.7%となっており、次いで「結婚や出産にかかわらず職業を持ち続ける」が、男性で34.2%、女性で39.0%となっている。

性・年齢別にみると、20歳～24歳の女性で、「結婚や出産を機に職業をやめるが、子どもが大きくなったら再び職業を持つ」が51.7%と半数を超え、「結婚や出産にかかわらず職業を持ち続ける」が30.6%となっている。

性・教育別にみると、大学卒業以上の女性で、「結婚や出産にかかわらず職業を持ち続ける」が「結婚や出産を機に職業をやめるが、子どもが大きくなったら再び職業を持つ」より多く、45.5%となっている。

性・就業状況別にみると、正社員、正規職員の女性で、「結婚や出産にかかわらず職業を持ち続ける」が52.4%と半数を超え、「結婚や出産を機に職業をやめるが、子どもが大きくなったら再び職業を持つ」は34.7%となっているのに対し、仕事をしていない女性では「結婚や出産を機に職業をやめるが、子どもが大きくなったら再び職業を持つ」が55.8%と半数を超え、「結婚や出産にかかわらず職業を持ち続ける」は26.7%となっている。

図 6-1 理想とする女性のライフコース

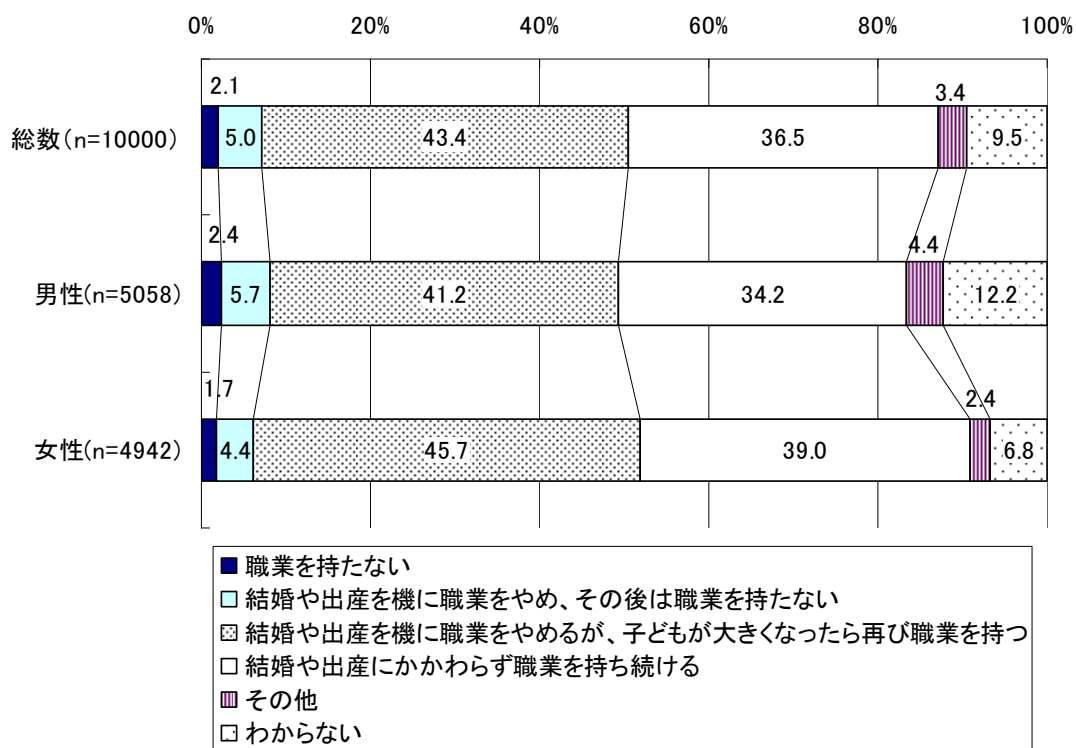
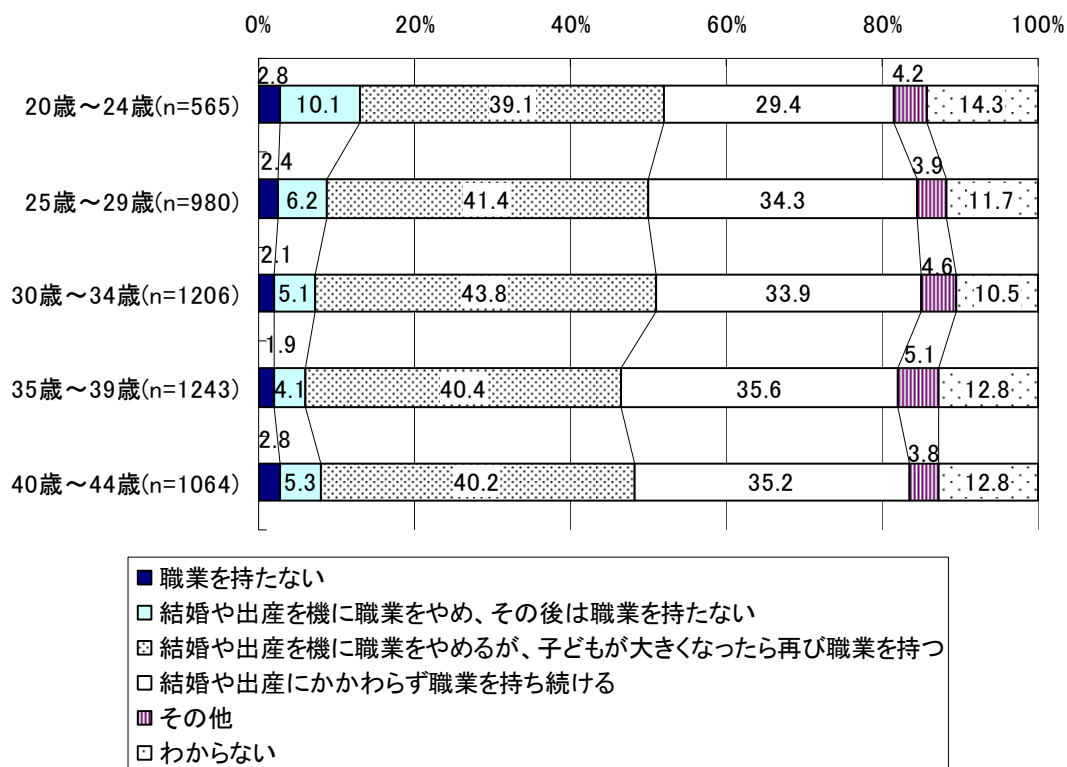
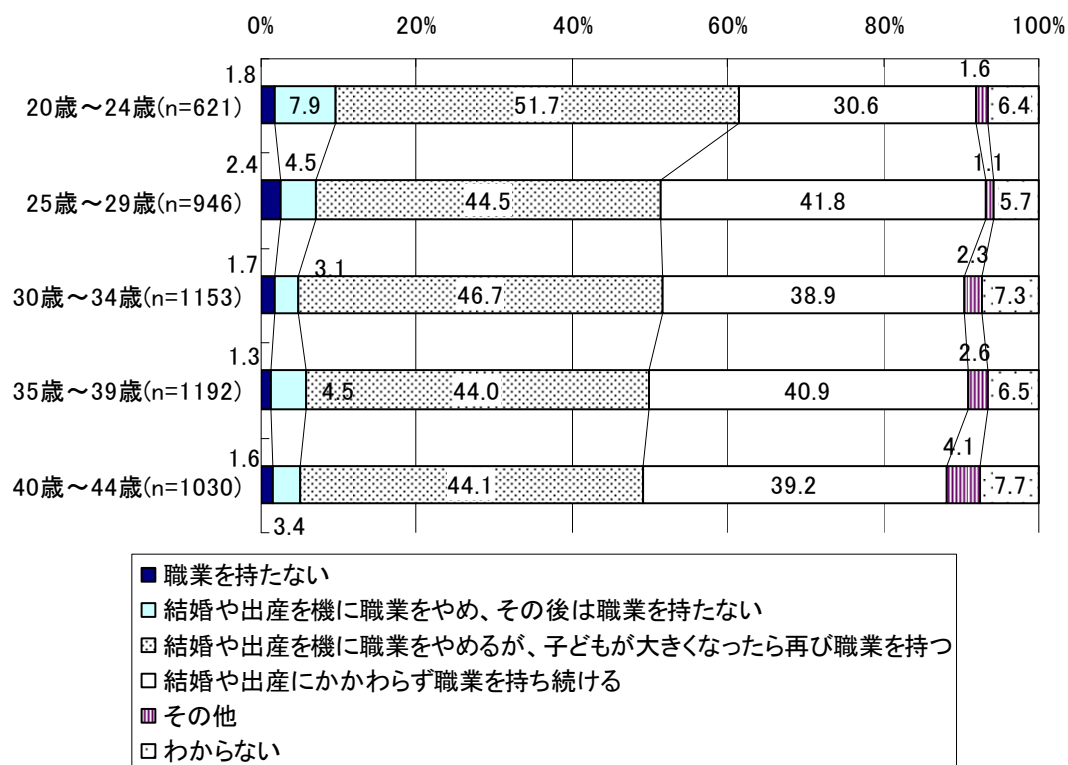


図 6-2 理想とする女性のライフコース[性・年齢別 男性]



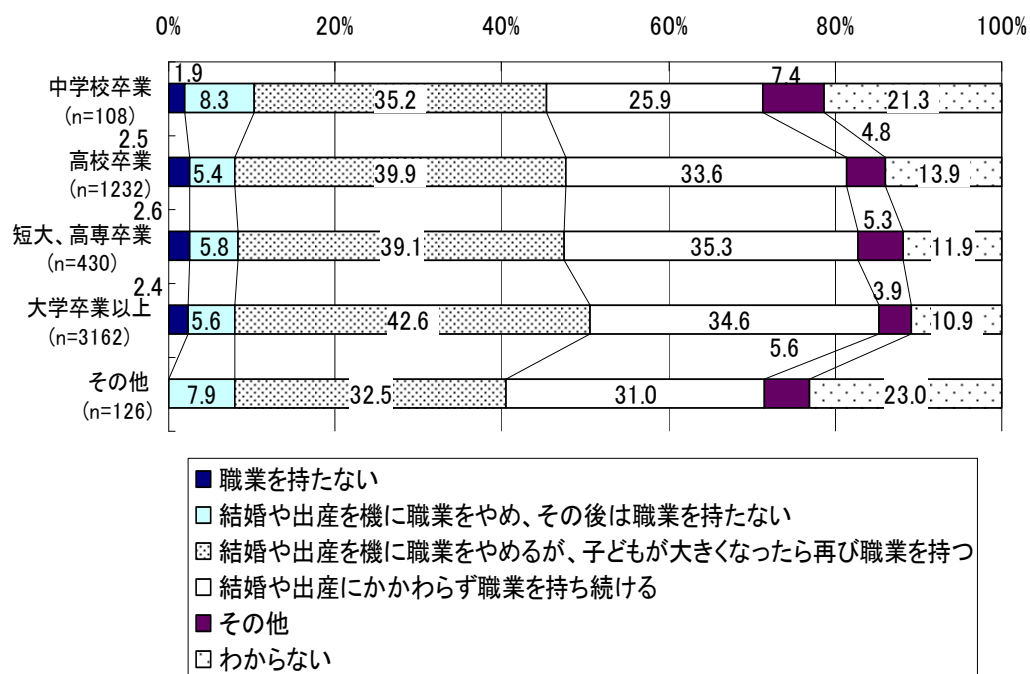
※ この調査では、現在まだ学生で、これまで学校を出て仕事については、調査対象外としており、若年層の結果をみる際には、特に留意が必要である。

図 6-3 理想とする女性のライフコース[性・年齢別 女性]



※ この調査では、現在まだ学生で、これまで学校を出て仕事についたことはない人については、調査対象外としており、若年層の結果をみる際には、特に留意が必要である。

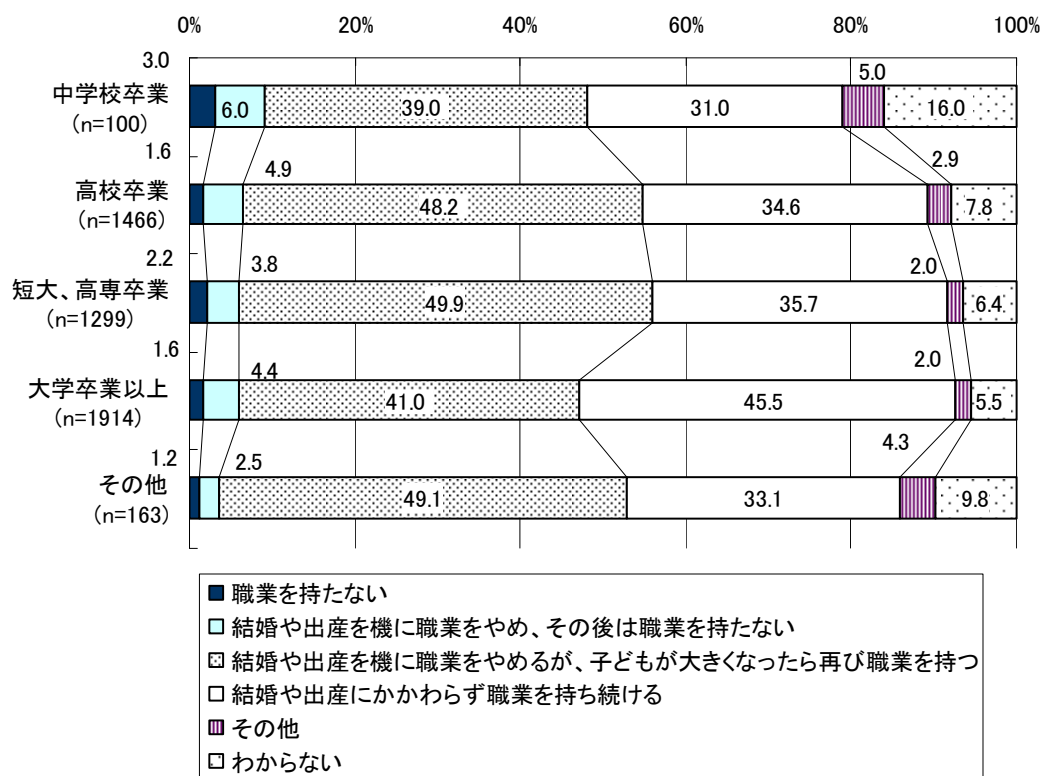
図 6-4 理想とする女性のライフコース[性・教育別 男性]



※ Q2-1の回答のうち、「高校中退」は「中学校卒業」に、「短大、高専中退」及び「大学中退」は「高校卒業」にそれぞれ含め、「大学卒業」及び「大学院中退または修了」を「大学卒業以上」として集計している。

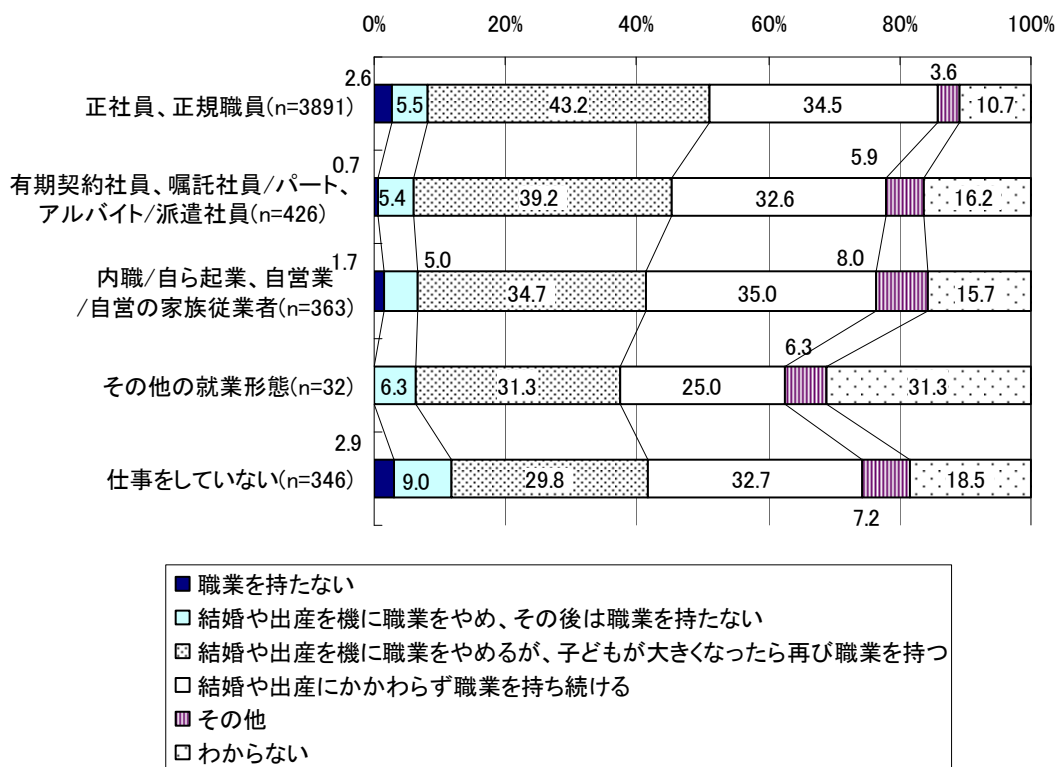
※ 教育別のその他(n=126)については、「職業を持たない」の該当者はいない。

図 6-5 理想とする女性のライフコース[性・教育別 女性]



※ Q2-1の回答のうち、「高校中退」は「中学校卒業」に、「短大、高専中退」及び「大学中退」は「高校卒業」にそれぞれ含め、「大学卒業」及び「大学院中退または修了」を「大学卒業以上」として集計している。

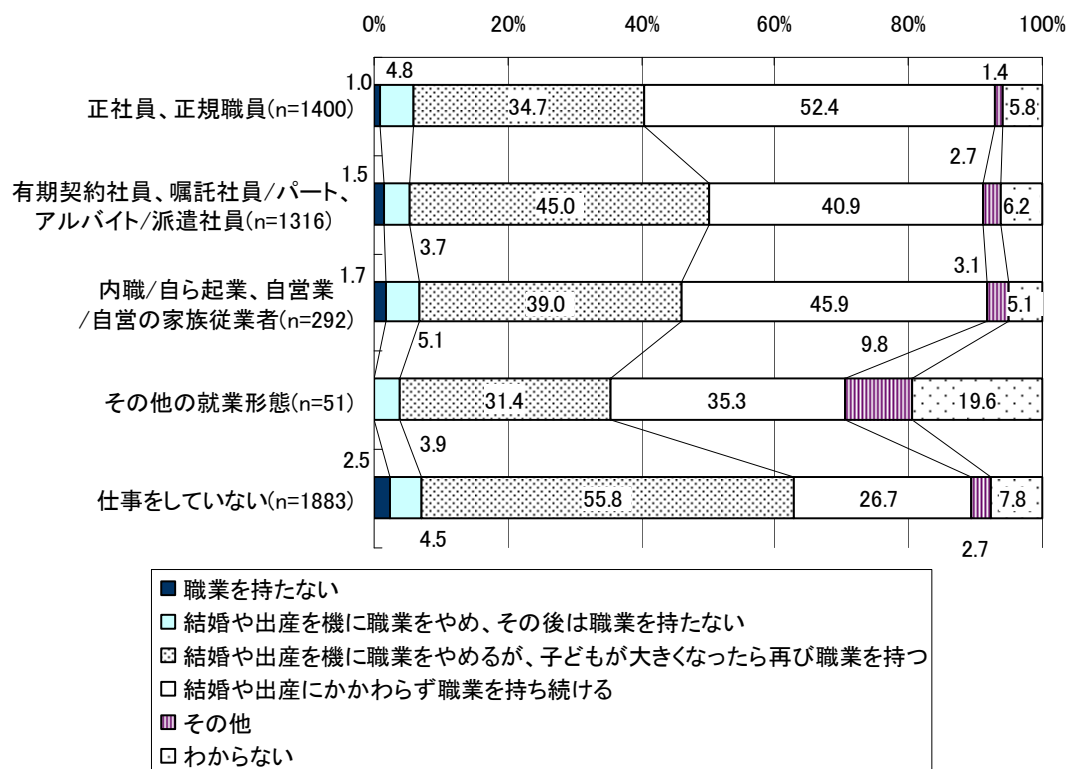
図 6-6 理想とする女性のライフコース[性・就業状況別 男性]



※ 「その他の就業形態」は Q4-1(現職の就業形態)で「その他」を選択した人であり、「仕事をしていない」は Q2-4(学校を出てからの就業経験)で、「いいえ」(学校を出てから働いたことはない)と回答した人、及び Q3-6(初職からの離職状況)で、「A社を辞めて、現在は仕事をしていない」(初職を辞めて現在は仕事をしていない)と回答した人の合計である。

※ その他の就業形態(n=32)については、「職業を持たない」の該当者はいない。

図 6-7 理想とする女性のライフコース[性・就業状況別 女性]



※ 「その他の就業形態」は Q4-1(現職の就業形態)で「その他」を選択した人であり、「仕事をしていない」は Q2-4(学校を出てからの就業経験)で、「いいえ」(学校を出てから働いたことはない)と回答した人、及び Q3-6(初職からの離職状況)で、「A社を辞めて、現在は仕事をしていない」(初職を辞めて現在は仕事をしていない)と回答した人の合計である。

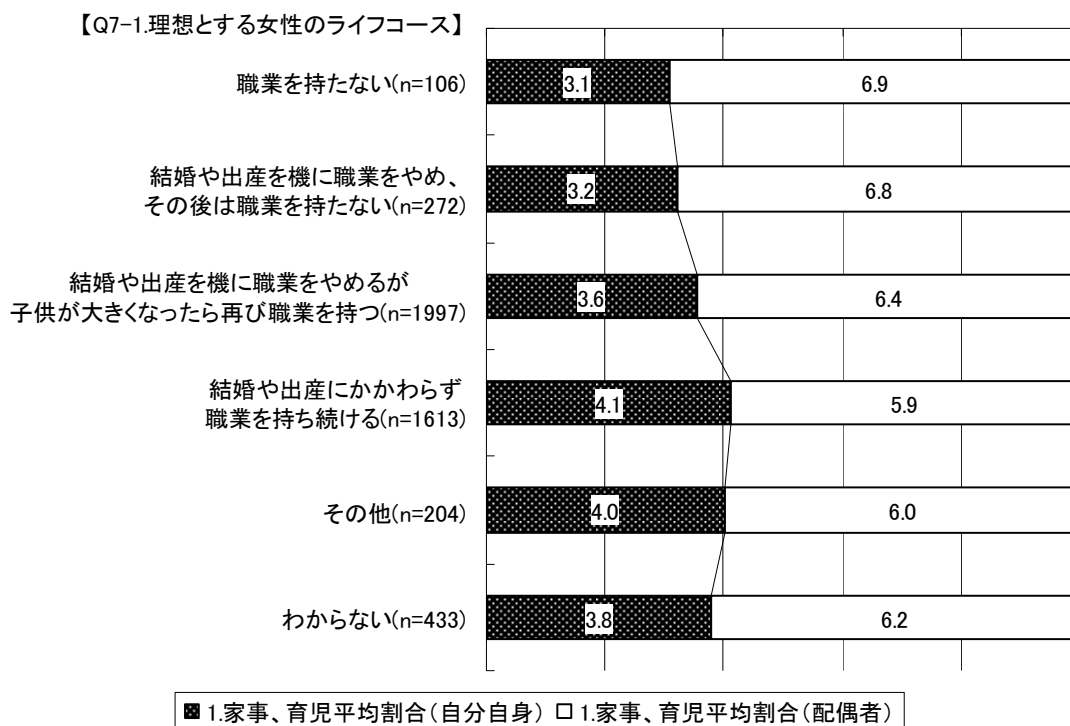
※ その他の就業形態(n=51)については、「職業を持たない」の該当者はいない。

男性について、理想とする女性のライフコース別に Q6-3 配偶者との理想の役割分担(自分自身と配偶者で合計が 10 になるよう選択した数字)をみると、家事・育児に関する負担割合の平均値(家事、育児平均割合)は、理想とする女性のライフコースを「結婚や出産にかかわらず職業をもち続ける」とした人で、自分自身について 4.1 と最も高くなっているのに対し、「職業を持たない」とした人で自分自身について 3.1 と最も低くなっている。

生計を立てるために収入を得ることに関する負担割合の平均値(生計を立てるために収入を得る平均割合)は、「結婚や出産を機に職業をやめ、その後は職業を持たない」とした人で自分自身について 8.6 と最も高くなっているのに対して、「結婚や出産にかかわらず職業をもち続ける」とした人で、自分自身について 6.9 と最も低くなっている。

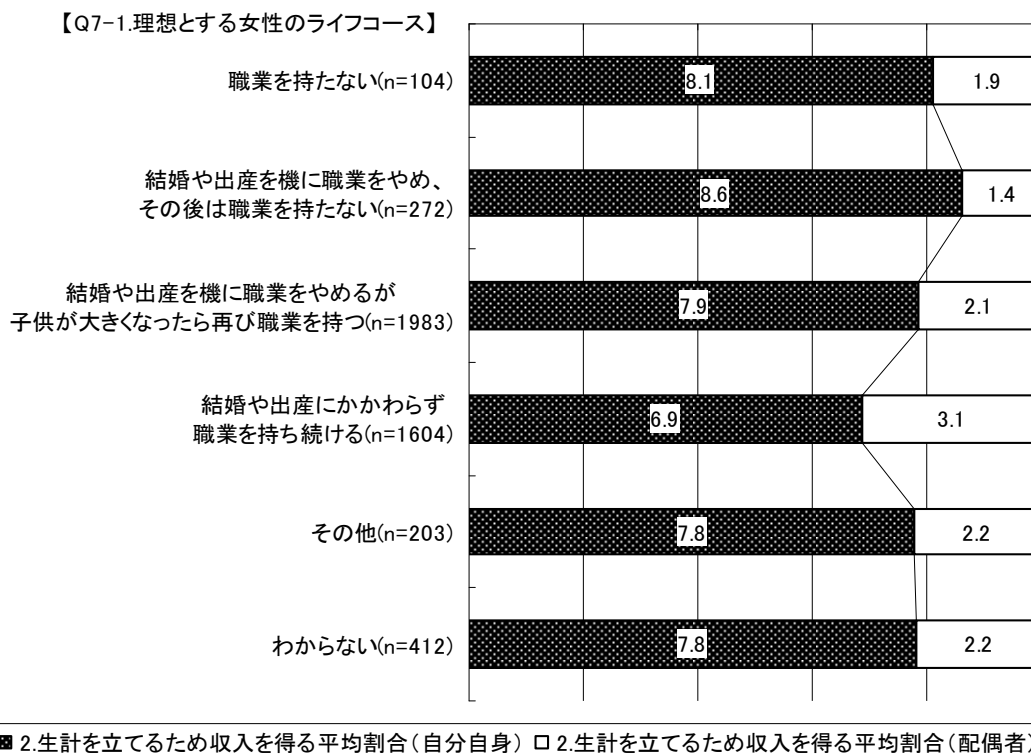
図 6-8 配偶者との理想の役割分担(家事、育児)

／理想とする女性のライフコース別 [性別 男性]



※ 平均割合は、Q6-3(配偶者との理想の役割分担(1.家事・育児))で「わからない」を選択した人を除いて算出している。

図 6-9 配偶者との理想の役割分担(生計を立てるために収入を得る)
 ／理想とする女性のライフコース別 [性別 男性]

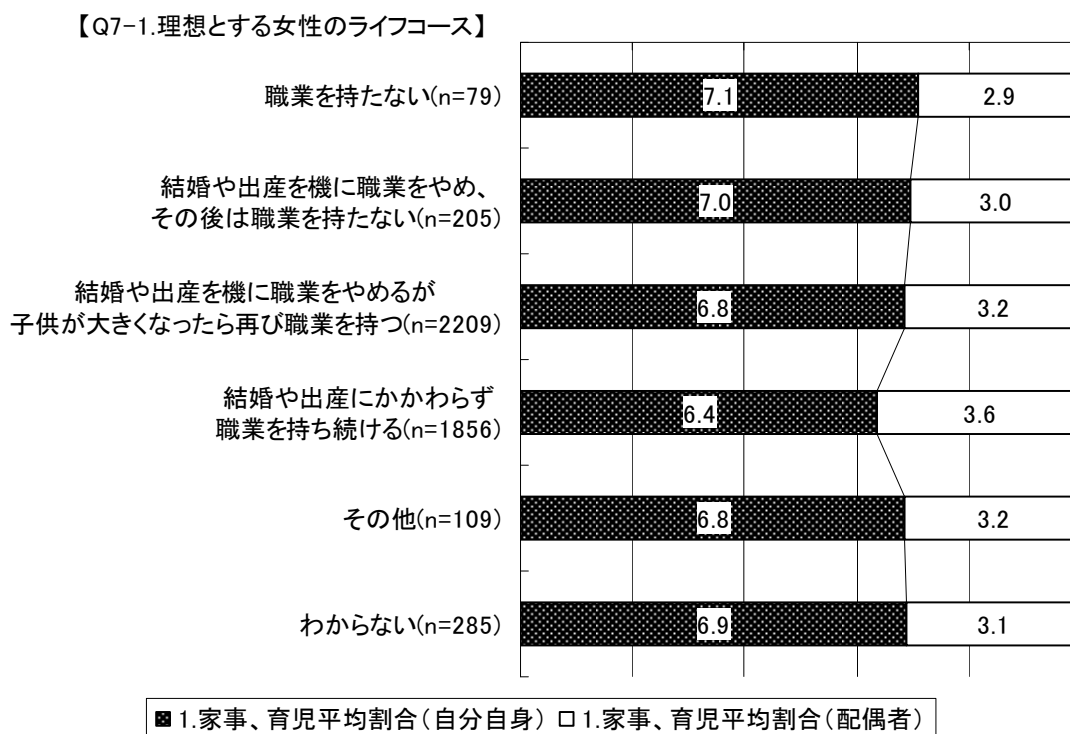


※ 平均割合は、Q6-3(配偶者との理想の役割分担(2. 生計を立てるために収入を得る))で「わからない」を選択した人を除いて算出している。

女性について、理想とする女性のライフコース別に Q6-3 配偶者との理想の役割分担(自分自身と配偶者で合計が 10 になるよう選択した数字)をみると、家事・育児に関する負担割合の平均値(家事、育児平均割合)は、理想とする女性のライフコースを「職業を持たない」とした人で、自分自身について 7.1 であり最も高くなっているのに対し、「結婚や出産にかかわらず職業を続ける」とした人で、自分自身について 6.4 と最も低くなっている。

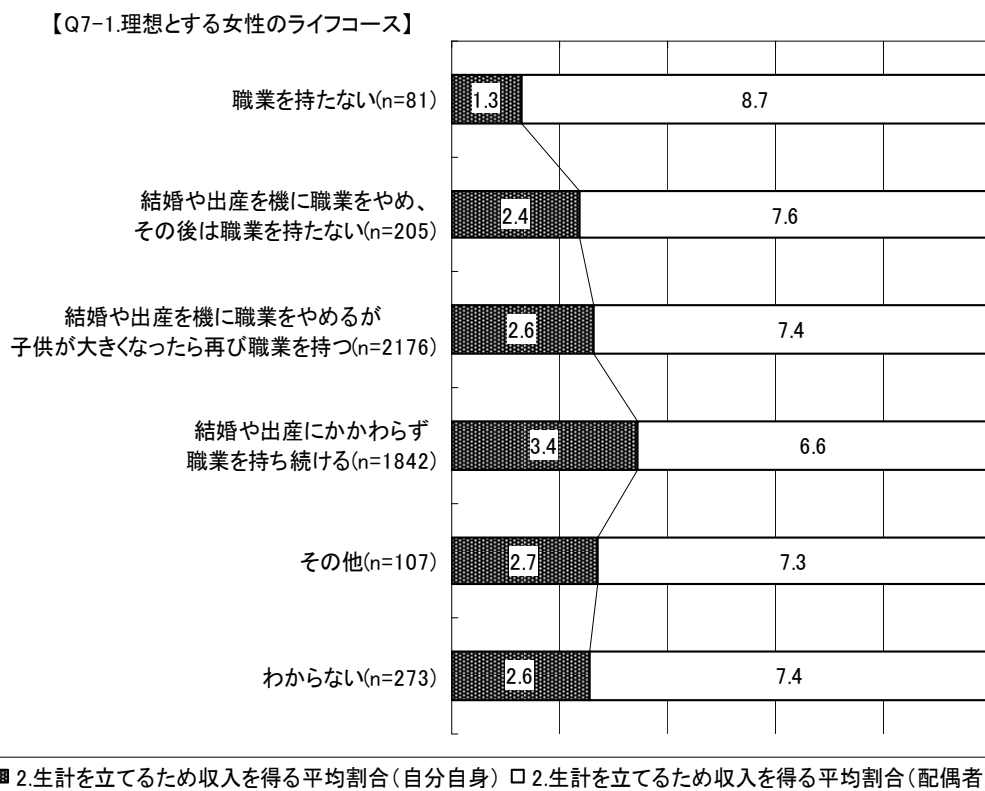
生計を立てるために収入を得ることに関する負担割合の平均値(生計を立てるために収入を得る平均割合)は、「結婚や出産にかかわらず職業を続ける」とした人で自分自身について 3.4 と最も高くなっているのに対して、「職業を持たない」とした人で、自分自身について 1.3 と最も低くなっている。

図 6-10 配偶者との理想の役割分担(家事、育児)
 ／理想とする女性のライフコース別 [性別 女性]



※ 平均割合は、Q6-3(配偶者との理想の役割分担(1.家事・育児))で「わからない」を選択した人を除いて算出している。

図 6-11 配偶者との理想の役割分担(生計を立てるために収入を得る)
 ／理想とする女性のライフコース別[性別 女性]



※ 平均割合は、Q6-3(配偶者との理想の役割分担(2.生計を立てるため収入を得る))で「わからない」を選択した人を除いて算出している。

(2) 理想のライフコースに関する考えに影響を受けたもの

Q7-2. あなたが、Q7-1 でご回答された理想と考えるライフコースに関する考えは、何から影響を受けましたか。(いくつでも)

理想とする女性のライフコースに関する考えに影響を受けたものは、性別にみると、男女とも、「行政が行う広報啓発活動」が約1%で最も少なく、「特に影響を受けたものはない」が4割を超えて最も多くなっている。女性では、男性よりも、「友人やまわりの人」が約10%高く、「親」が約5%高くなっている。

性・教育別にみると、大学卒業以上の女性で、「親」が3割を超えている。

図 6-12 理想とする女性のライフコースに関する考えに影響を受けたもの

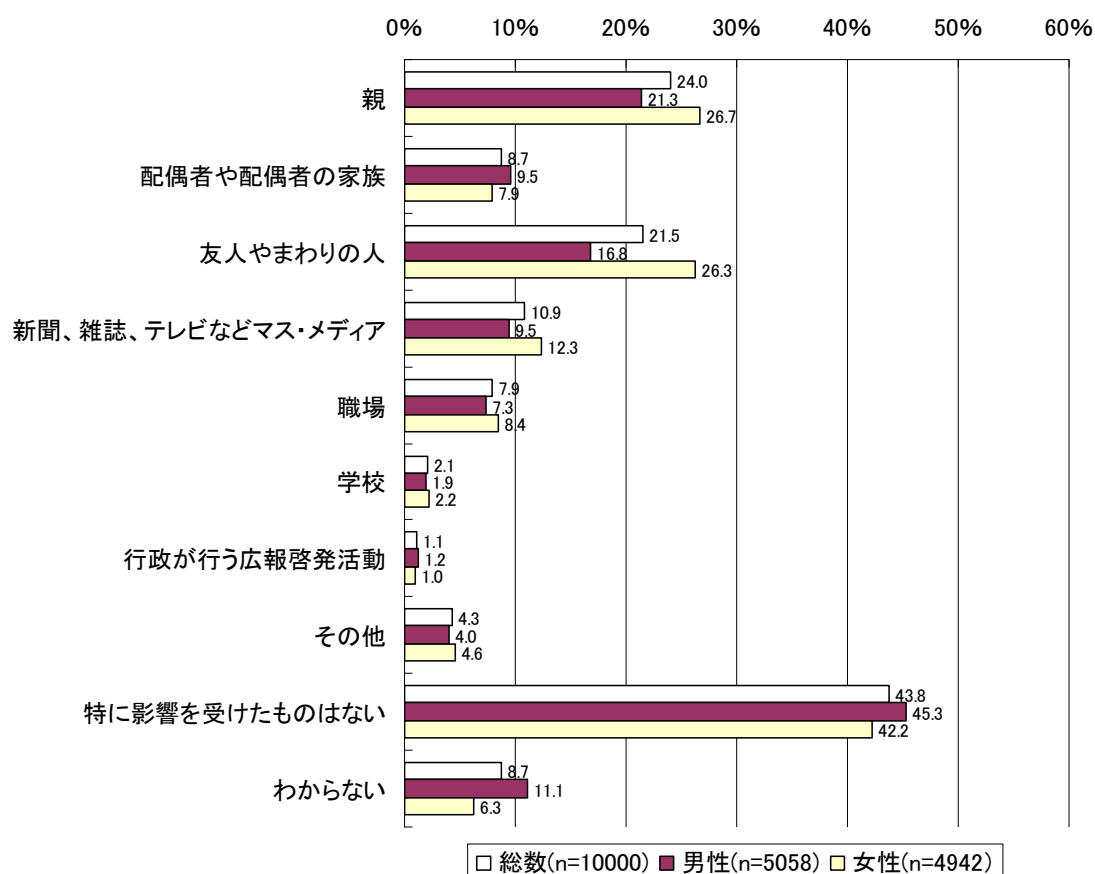
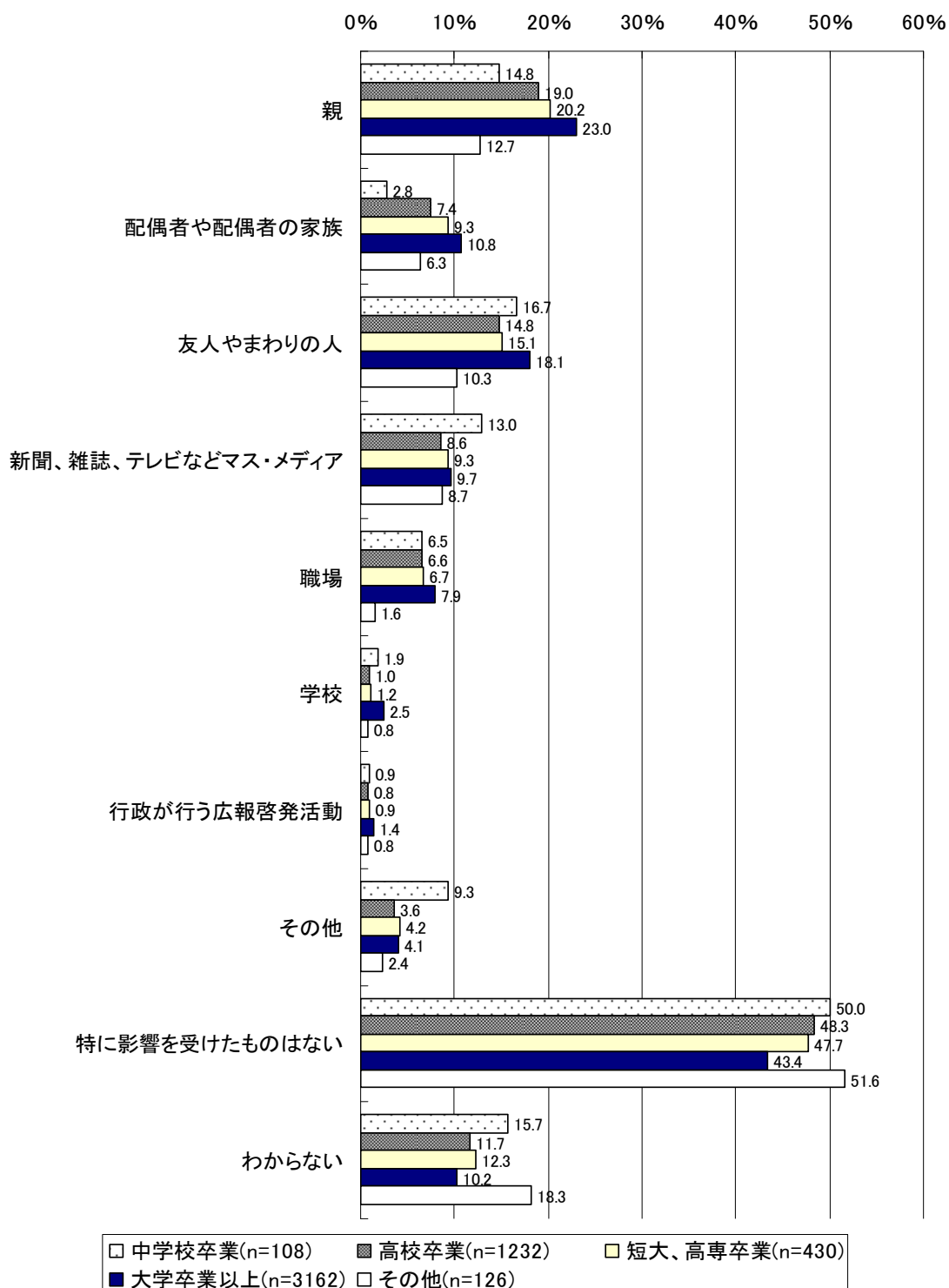
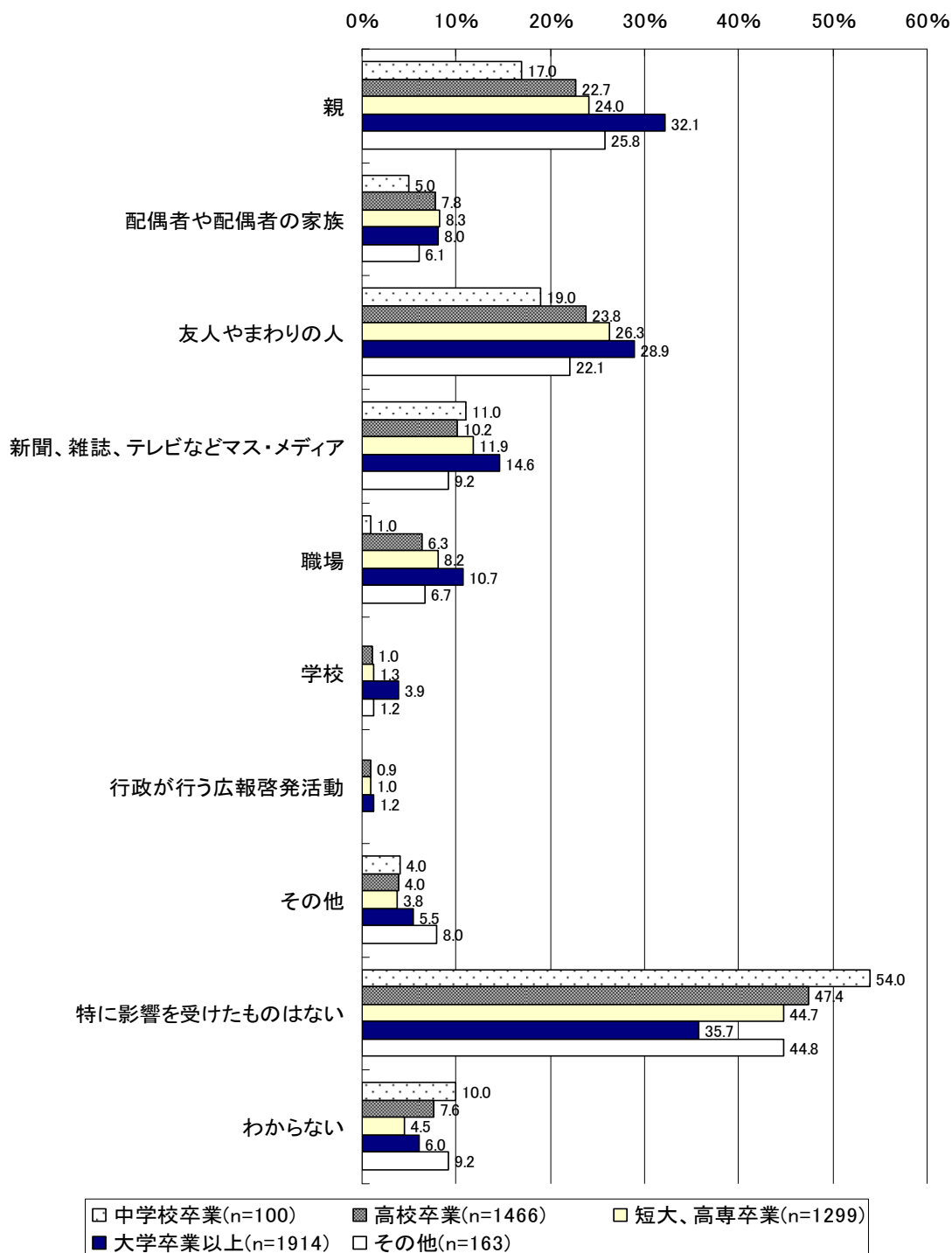


図 6-13 理想とする女性のライフコースに関する考えに影響を受けたもの
[性・教育別 男性]



※ Q2-1の回答のうち、「高校中退」は「中学校卒業」に、「短大、高専中退」及び「大学中退」は「高校卒業」にそれぞれ含め、「大学卒業」及び「大学院中退または修了」を「大学卒業以上」として集計している。

図 6-14 理想とする女性のライフコースに関する考えに影響を受けたもの
[性・教育別 女性]



※ Q2-1の回答のうち、「高校中退」は「中学校卒業」に、「短大、高専中退」及び「大学中退」は「高校卒業」にそれぞれ含め、「大学卒業」及び「大学院中退または修了」を「大学卒業以上」として集計している。

※ 「学校」については中学校卒業の該当者はいない。

※ 「行政が行う広報啓発活動」については、中学校卒業及びその他の該当者はいない。

(3) 家庭生活への考え

Q7-3. 家庭生活などに関してあなたはどのようにお考えですか。(それぞれひとつずつ)

男性のみが働いて世帯の生計を支えることは、負担が重い

女性が職業を持って、収入を得ることは重要だ

女性が家事・育児などの家庭生活と仕事を両立することは難しい

男性が家事・育児などの家庭生活と仕事を両立することは難しい

家庭生活などに関する考えを性別にみると、「男性のみが働いて世帯の生計を支えることは、負担が重い」については、そう思う計(「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計)が、男性では63.3%、女性では68.0%となっている。

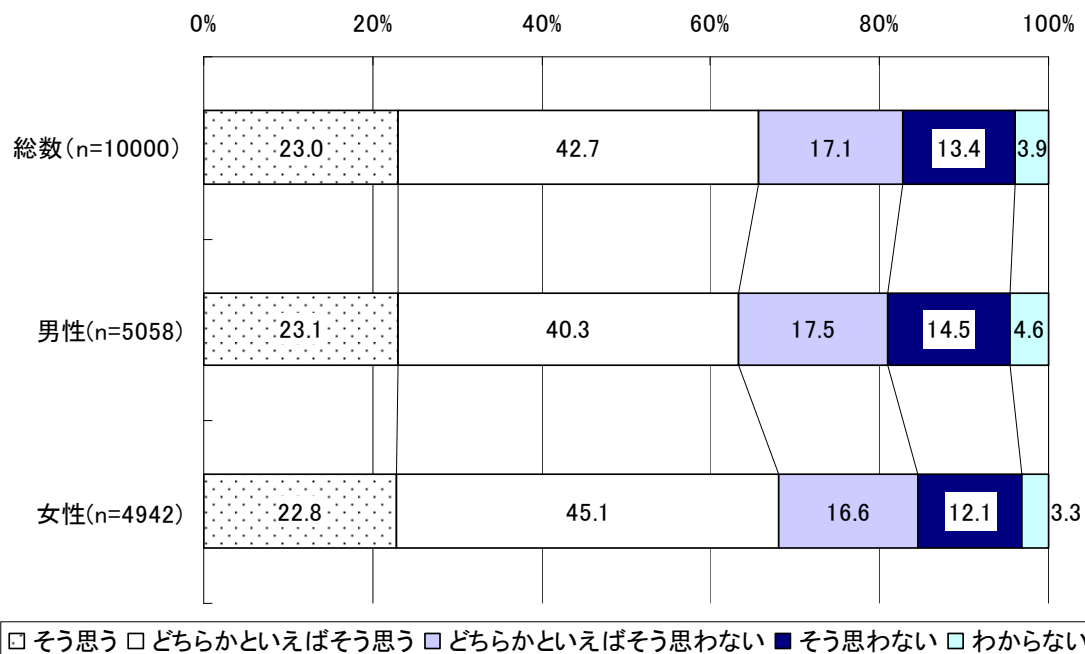
「女性が職業を持って、収入を得ることは重要だ」については、そう思う計が、男性は68.1%、女性は75.4%となっており、女性が約7%高くなっている。

「女性が家事・育児などの家庭生活と仕事を両立することは難しい」については、そう思う計が、男性では68.3% 女性では79.6%となっており、女性が約11%高くなっている。

「男性が家事・育児などの家庭生活と仕事を両立することは難しい」は、そう思う計が、男性では67.4% 女性では78.3%となっており、女性が約11%高くなっている。

図 6-15 家庭生活への考え

(「男性のみが働いて世帯の生計を支えることは、負担が重い」)



※ 四捨五入のため、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計が、本文の記述と一致しない個所がある。

図 6-16 家庭生活への考え
 (「女性が職業を持って、収入を得ることは重要だ」)

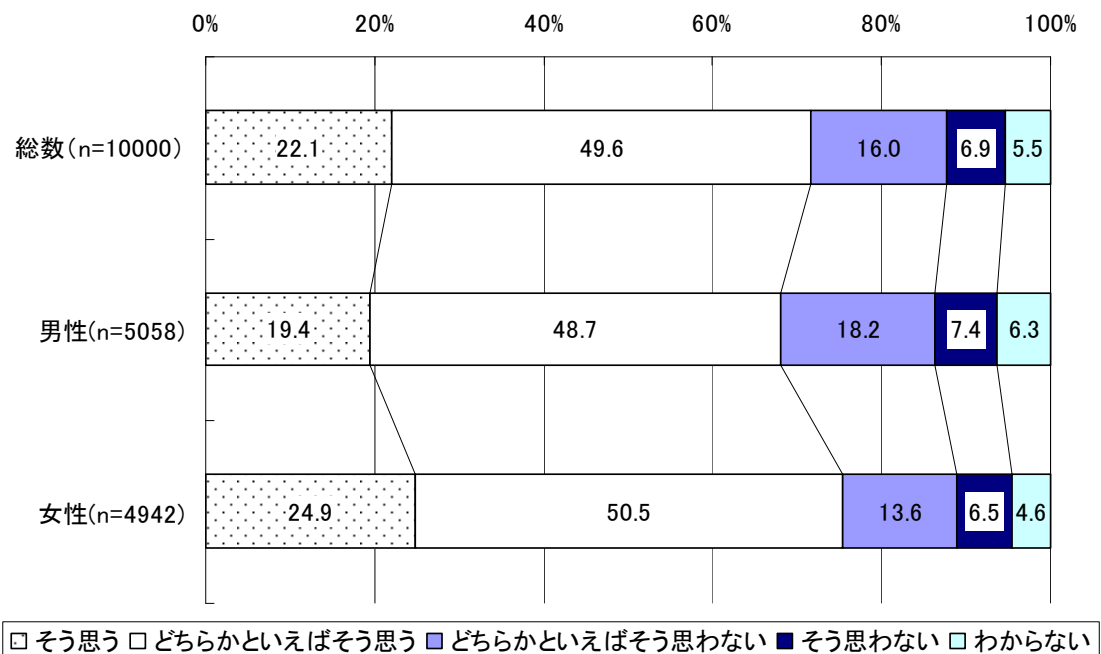


図 6-17 家庭生活への考え
 (「女性が家事・育児などの家庭生活と仕事を両立することは難しい」)

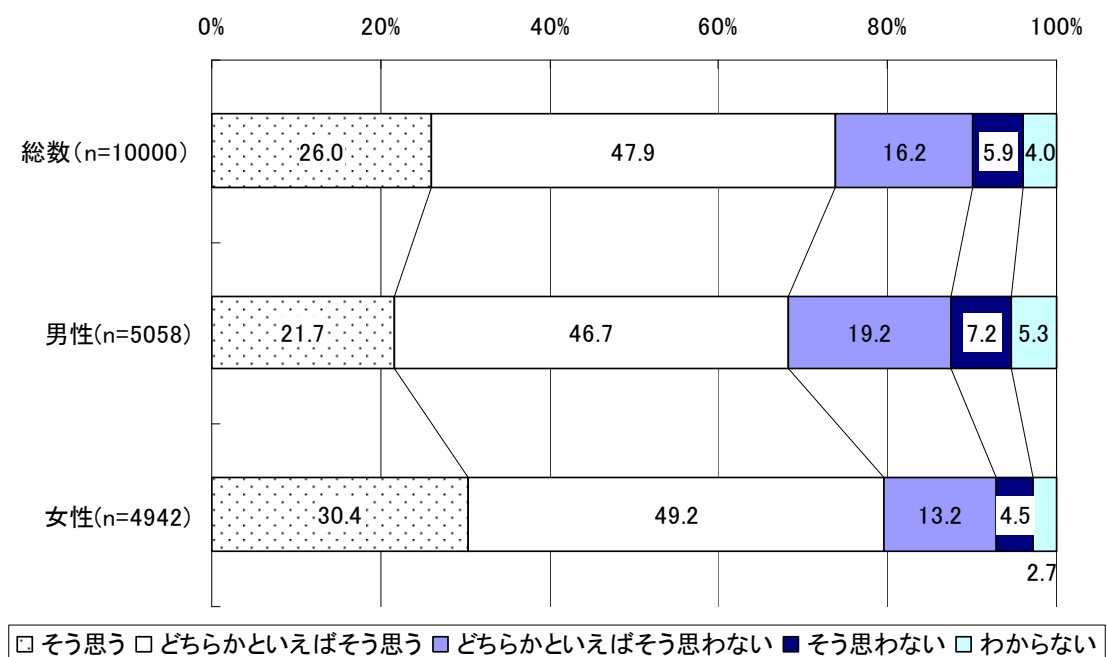
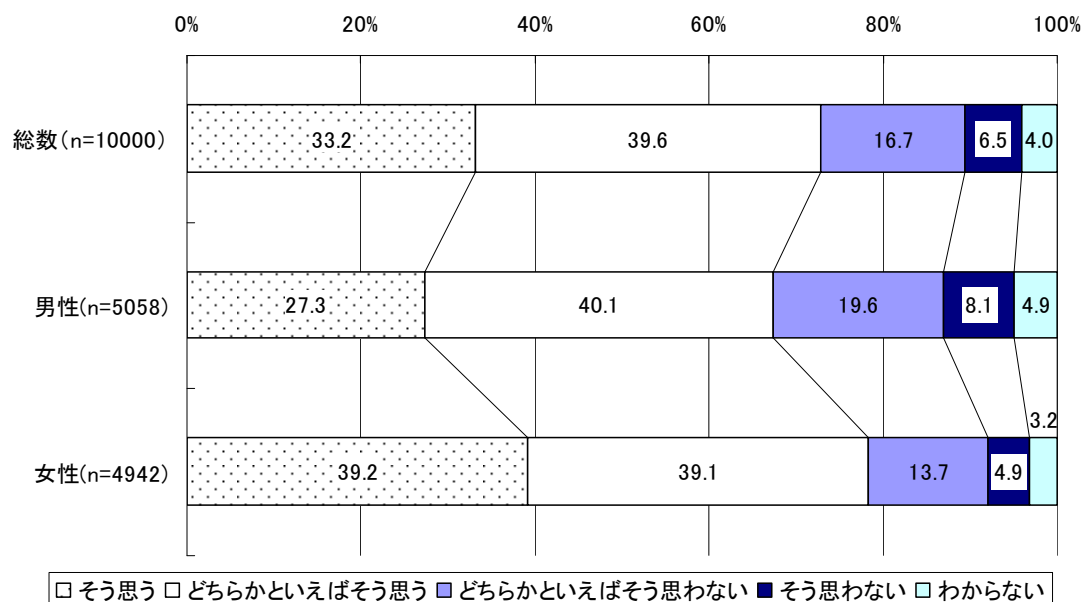


図 6-18 家庭生活への考え

(「男性が家事・育児などの家庭生活と仕事を両立することは難しい」)



男性について、家庭生活への考え別に理想とする女性のライフコース(Q7-1)をみると、「男性のみが働いて世帯の生計を支えることは、負担が重い」については「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」を選択した人(そう思う計)では、「そう思わない」または「どちらかといえばそう思わない」を選択した人(そう思わない計)よりも、「結婚や出産にかかわらず職業を持ち続ける」を、理想とする女性のライフコースとして選択する割合が、約15%高くなっている。

「女性が職業を持って、収入を得ることは重要だ」については、そう思う計で、そう思わない計よりも、「結婚や出産にかかわらず職業を持ち続ける」を、理想とする女性のライフコースとして選択する割合が、約28%高くなっている。

「女性が家事・育児などの家庭生活と仕事を両立することは難しい」については、そう思う計で、そう思わない計よりも、理想とする女性のライフコースとして「結婚や出産を機に職業をやめるが、子どもが大きくなったら再び職業を持つ」を選択する割合が、約10%高く、「結婚や出産にかかわらず職業を持ち続ける」を選択する割合が約7%低くなっている。

「男性が家事・育児などの家庭生活と仕事を両立することは難しい」については、そう思う計で、そう思わない計よりも、理想とする女性のライフコースとして「結婚や出産を機に職業をやめるが、子どもが大きくなったら再び職業を持つ」を選択する割合が約11%高く、「結婚や出産にかかわらず職業を持ち続ける」を選択する割合が約7%低くなっている。

図 6-19 理想とする女性のライフコース／家庭生活への考え
 (「男性のみが働いて世帯の生計を支えることは、負担が重い」)
 [性別 男性]

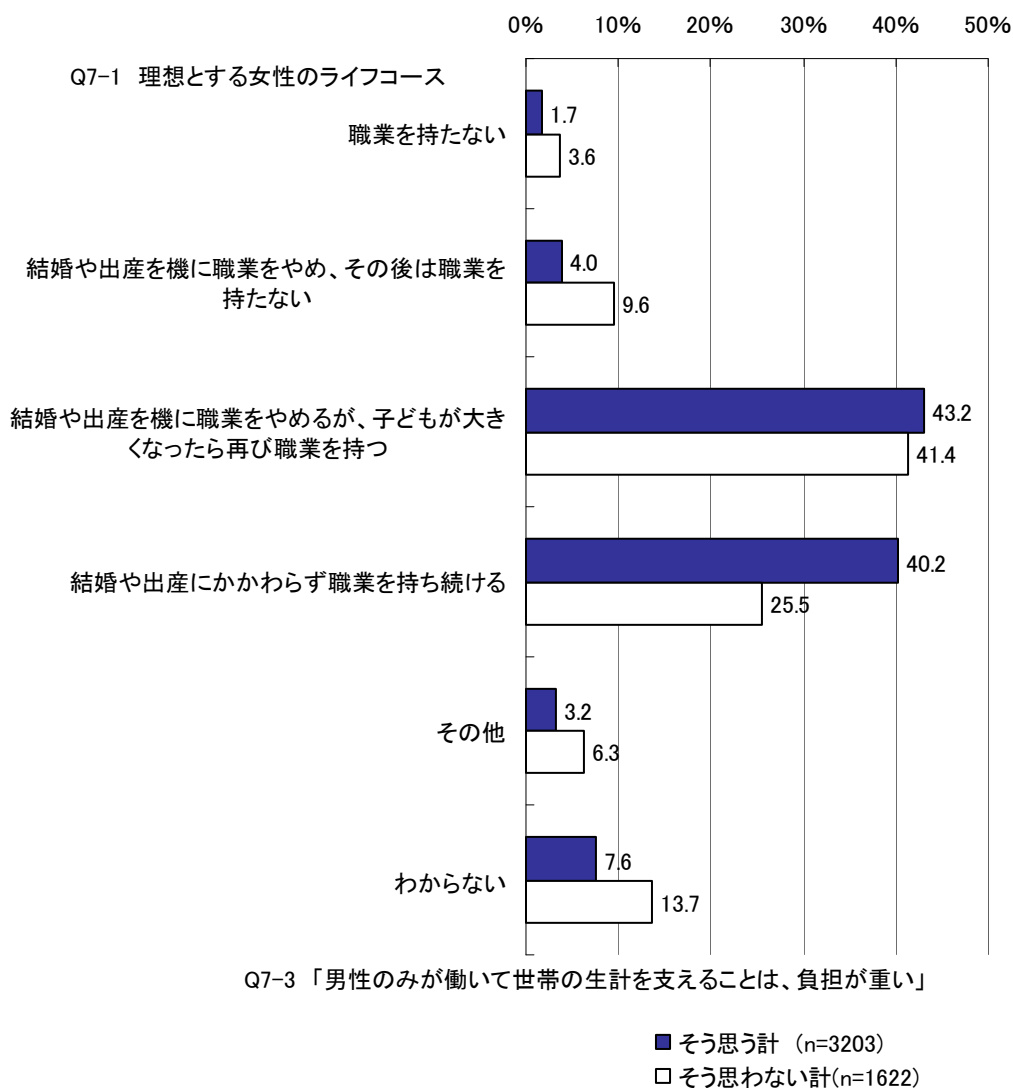


図 6-20 理想とする女性のライフコース／家庭生活への考え
 (「女性が職業を持って、収入を得ることは重要だ」)
 [性別 男性]

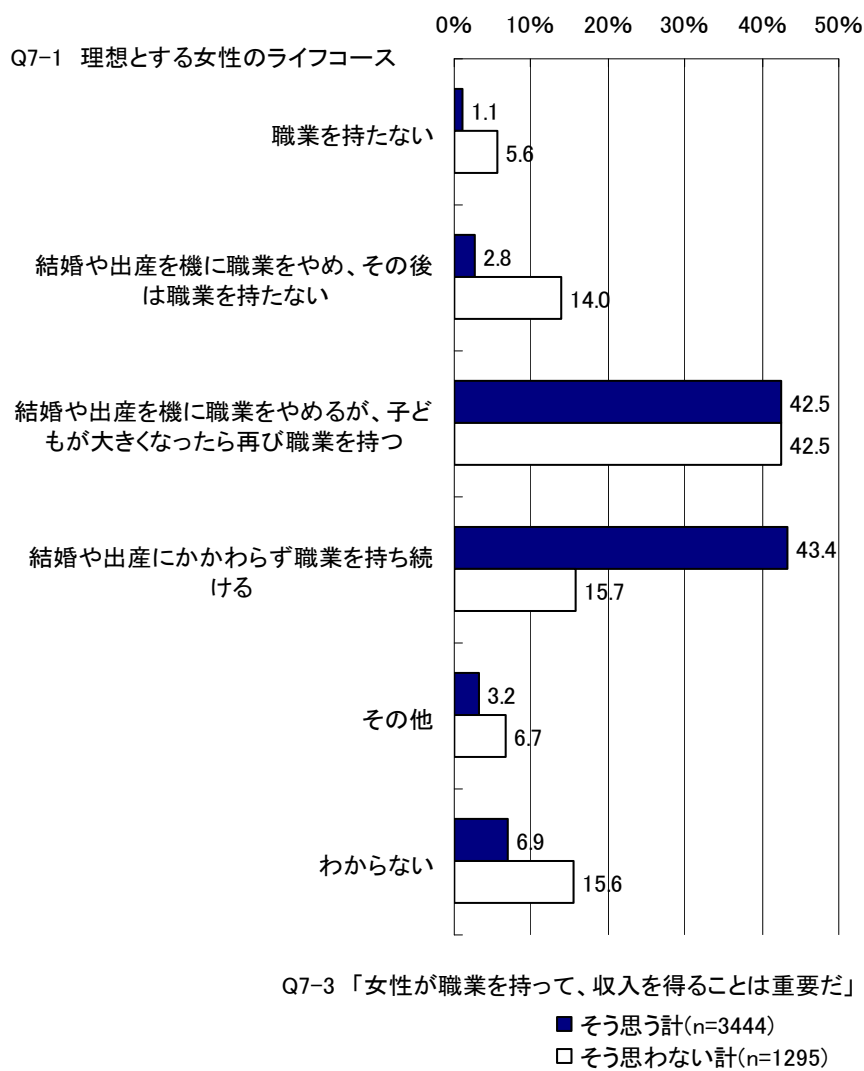
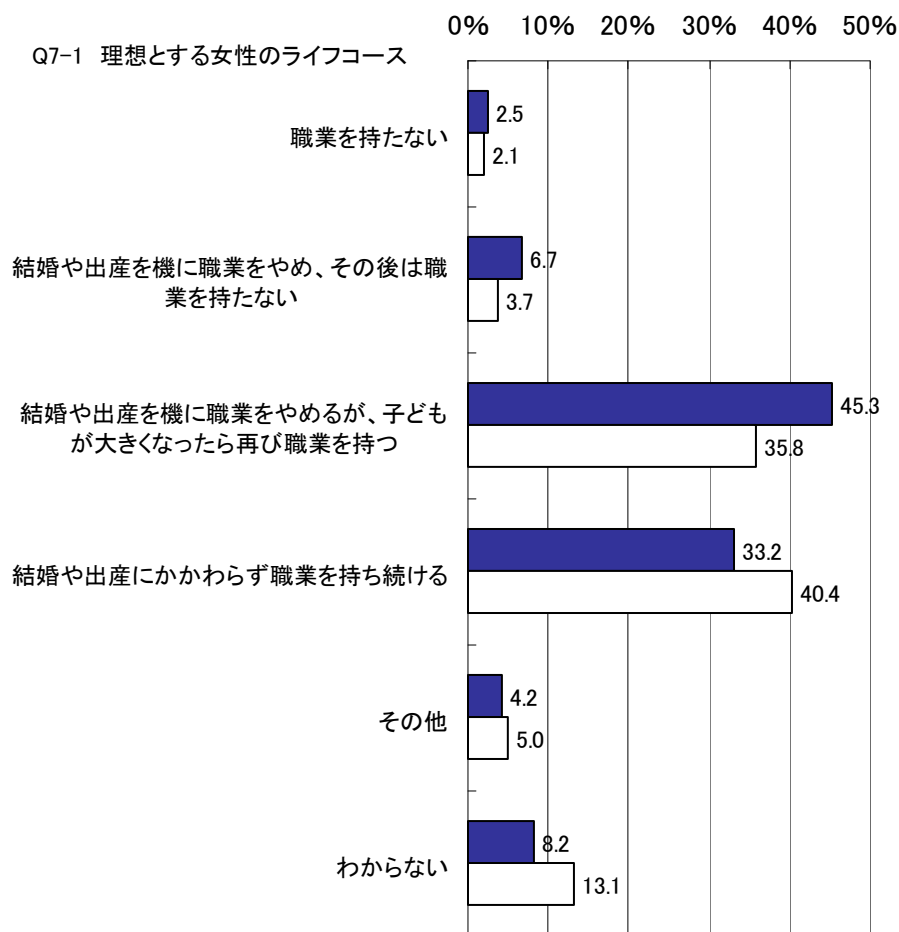


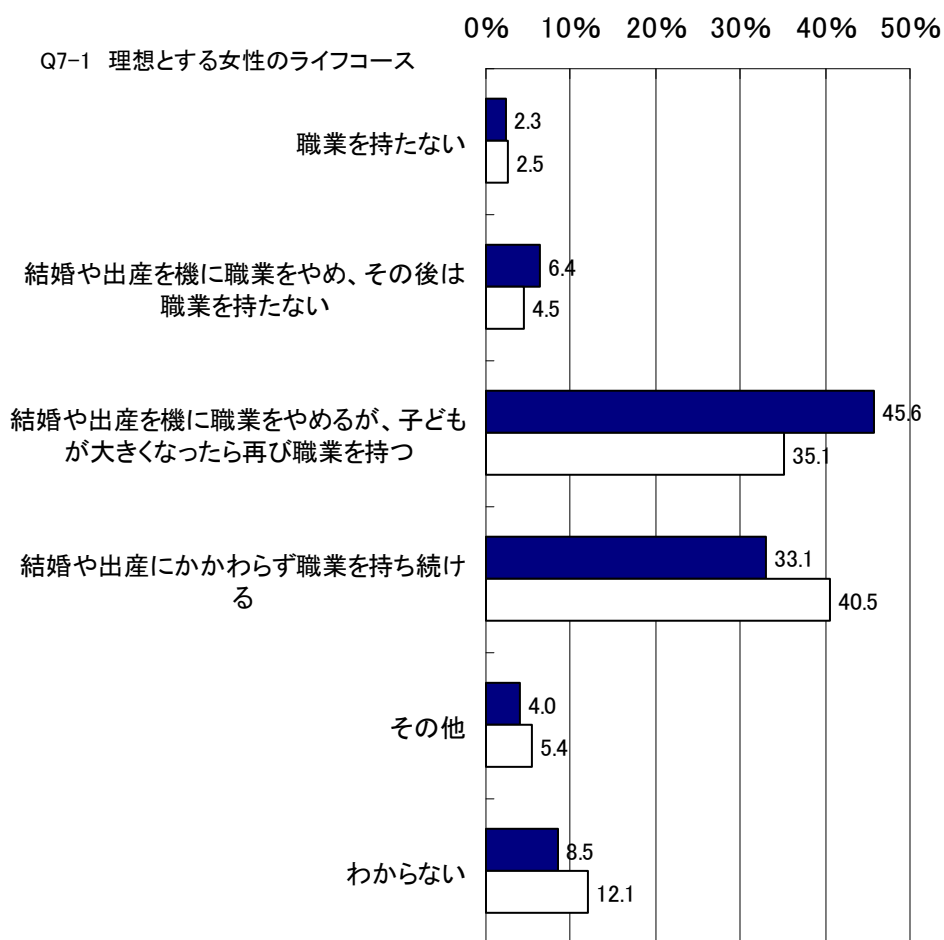
図 6-21 理想とする女性のライフコース／家庭生活への考え
 (「女性が家事・育児などの家庭生活と仕事を両立することは難しい」)
 [性別 男性]



Q7-3 「女性が家事・育児などの家庭生活と仕事を両立することは難しい」

■ そう思う計(n=3457)
 □ そう思わない計(n=1333)

図 6-22 理想とする女性のライフコース／家庭生活への考え
 (「男性が家事・育児などの家庭生活と仕事を両立することは難しい」)
 [性別 男性]



Q7-3 「男性が家事・育児などの家庭生活と仕事を両立することは難しい」

■ そう思う計(n=3411)
 □ そう思わない計(n=1401)

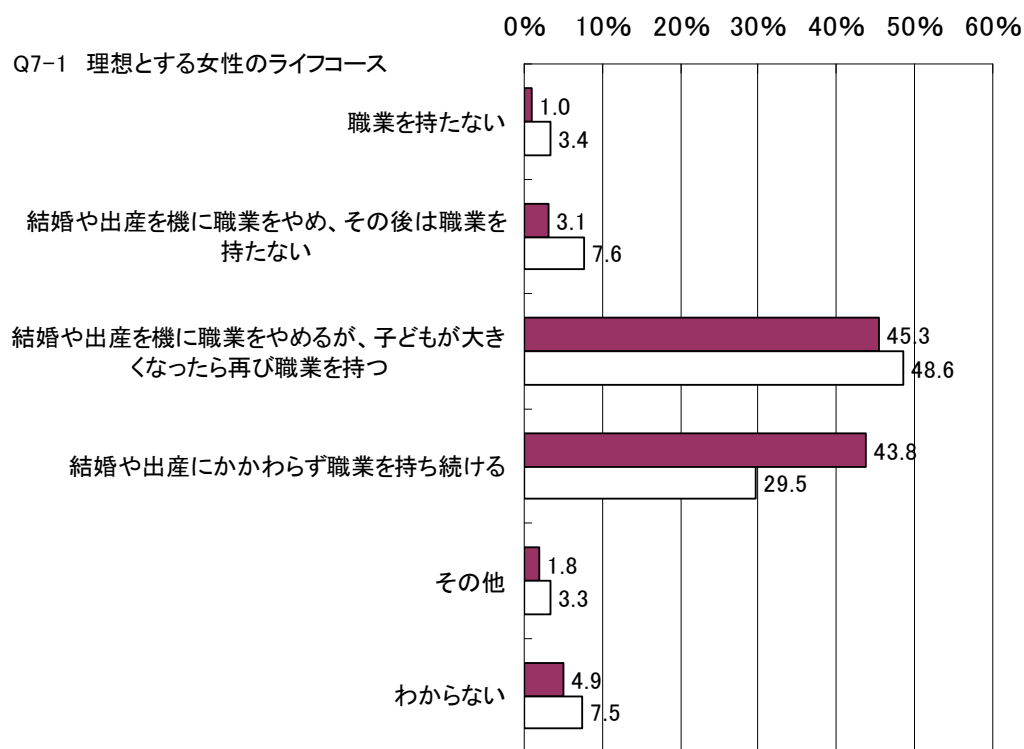
女性について、家庭生活への考え別に理想とする女性のライフコースをみると、「男性のみが働いて世帯の生計を支えることは、負担が重い」について「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」を選択した人(そう思う計)では、「そう思わない」または「どちらかといえばそう思わない」を選択した人(そう思わない計)よりも、「結婚や出産にかかわらず職業を持ち続ける」を、理想とする女性のライフコースとして選択する割合が、約14%高くなっている。

「女性が職業を持って、収入を得ることは重要だ」については、そう思う計で、そう思わない計よりも、「結婚や出産にかかわらず職業を持ち続ける」を、理想とする女性のライフコースとして選択する割合が、約33%高くなっている。

「女性が家事・育児などの家庭生活と仕事を両立することは難しい」については、そう思う計で、そう思わない計よりも、理想とする女性のライフコースとして「結婚や出産を機に職業をやめるが、子どもが大きくなったら再び職業を持つ」を選択する割合が、約9%高く、「結婚や出産にかかわらず職業を持ち続ける」を選択する割合が約8%低くなっている。

「男性が家事・育児などの家庭生活と仕事を両立することは難しい」については、そう思う計で、そう思わない計よりも、理想とする女性のライフコースとして「結婚や出産を機に職業をやめるが、子どもが大きくなったら再び職業を持つ」を選択する割合が約13%高く、「結婚や出産にかかわらず職業を持ち続ける」を選択する割合が11.0%低くなっている。

図 6-23 理想とする女性のライフコース／家庭生活への考え
 (「男性のみが働いて世帯の生計を支えることは、負担が重い」)
 [性別 女性]



Q7-3 「男性のみが働いて世帯の生計を支えることは、負担が重い」

■ そう思う計(n=3359)
 □ そう思わない計(n=1422)

図 6-24 理想とする女性のライフコース／家庭生活への考え
 (「女性が職業を持って、収入を得ることは重要だ」)
 [性別 女性]

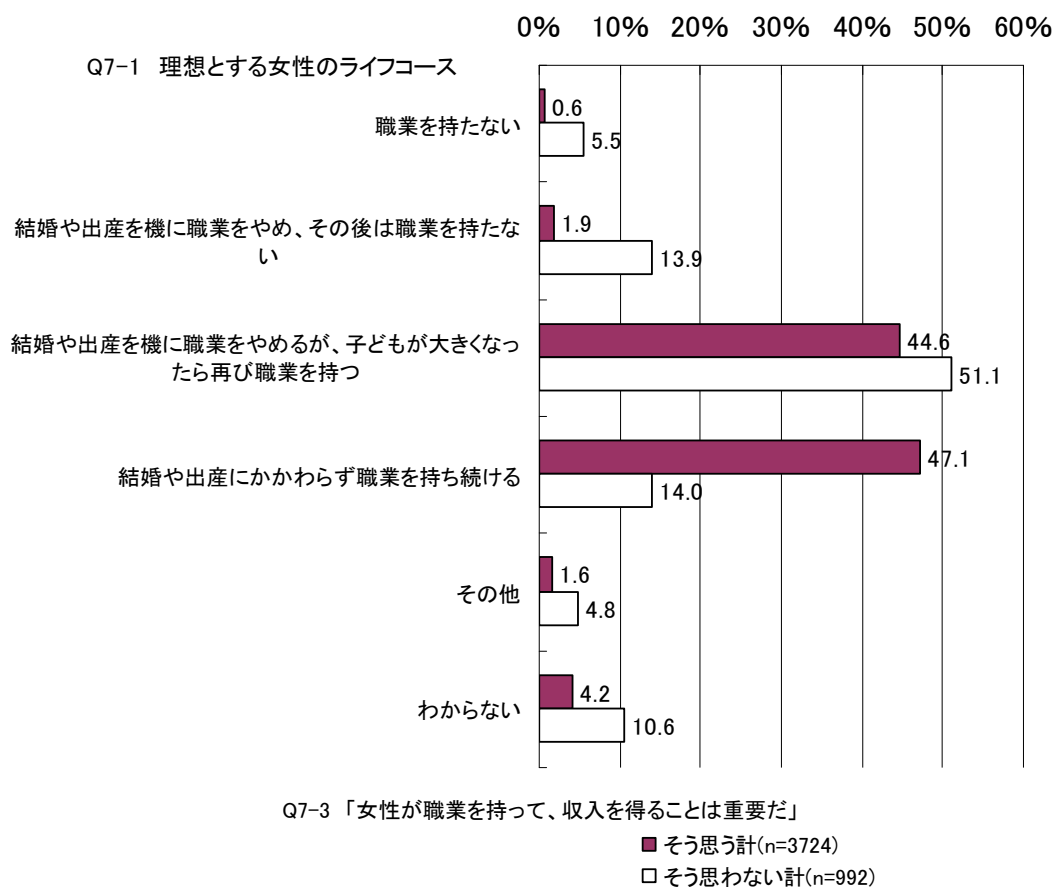
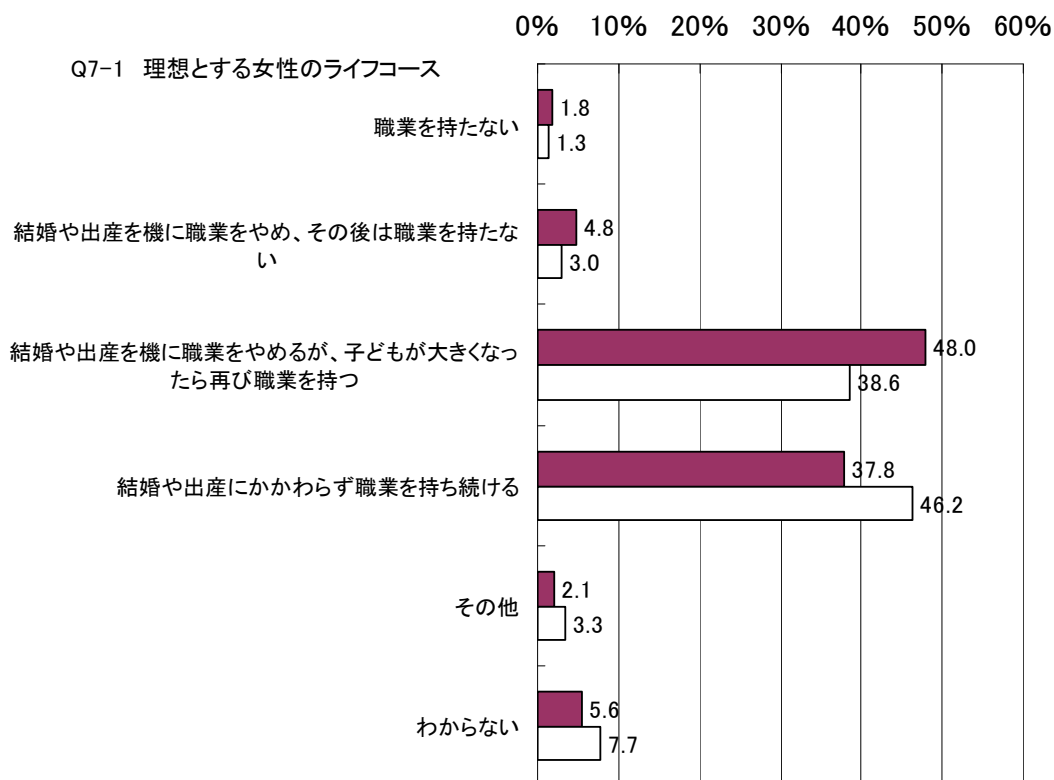


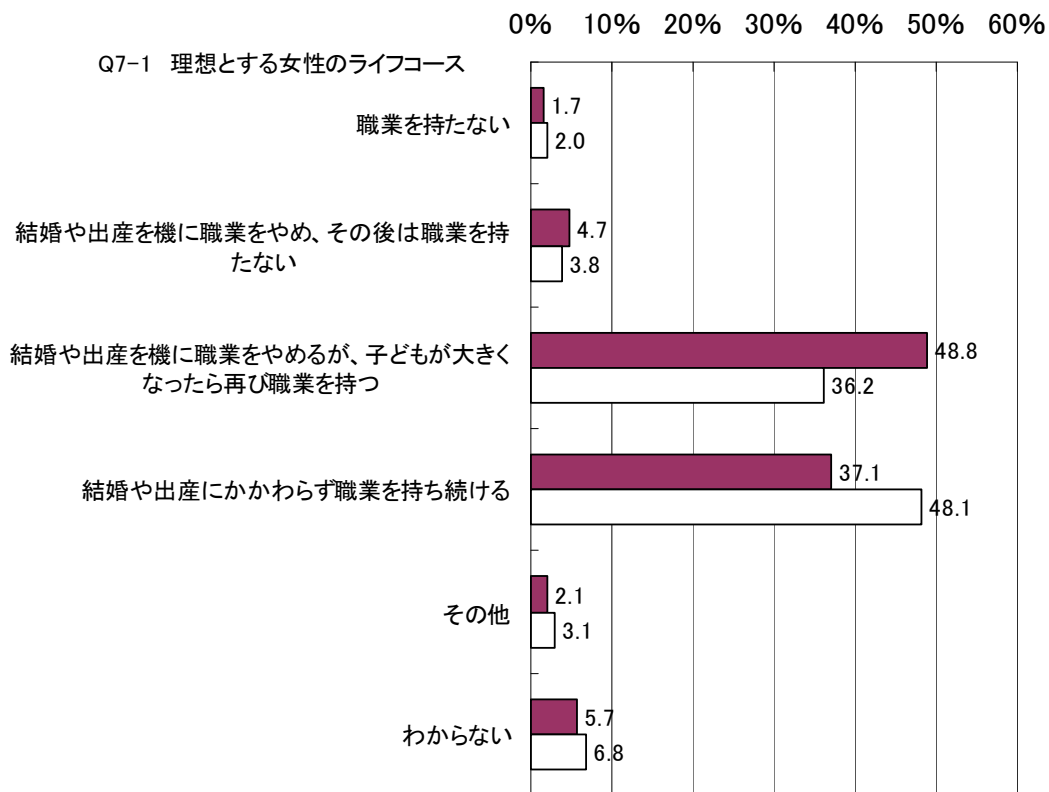
図 6-25 理想とする女性のライフコース／家庭生活への考え
 (「女性が家事・育児などの家庭生活と仕事を両立することは難しい」)
 [性別 女性]



Q7-3 「女性が家事・育児などの家庭生活と仕事を両立することは難しい」

■ そう思う計(n=3933)
 □ そう思わない計(n=874)

図 6-26 理想とする女性のライフコース／家庭生活への考え
 (「男性が家事・育児などの家庭生活と仕事を両立することは難しい」)
 [性別 女性]



Q7-3 「男性が家事・育児などの家庭生活と仕事を両立することは難しい」

■ そう思う計(n=3870)
 □ そう思わない計(n=916)

(4) 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである。」という考え方

**Q7-4. あなたは、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである。」という考え方をどう思いますか。
(ひとつだけ)**

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである。」という考え方をどう思うかについて、性別にみると、男女とも、「どちらかといえば賛成」という意見が最も多く、男性、女性ともに35.6%となっている。また、男性では、賛成計(「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計)が、反対計(「反対」と「どちらかといえば反対」の合計)を上回っているのに対し、女性では、反対計が賛成計を上回っている。

性・年齢別にみると、25歳～29歳の男性で、反対計が賛成計を約5%上回っているのに対し、35歳～39歳の男性では約9%、40歳～44歳の男性では約12%、賛成計が反対計をそれぞれ上回っている。また、25歳～29歳の女性については、反対計が賛成計を約8%上回っている

性・教育別にみると、大学卒業以上の男性で、賛成計が反対計を約5%上回っている。女性では、中学卒業で、賛成計が反対計を24.0%上回っているのに対し、大学卒業以上では、反対計が賛成計を11.0%上回っている。

性・就業状況別にみると、正社員、正規職員の男性で、賛成計が反対計を約7%上回っているのに対し、有期契約社員、嘱託社員／パート、アルバイト／派遣社員の男性では約12%、仕事をしていない男性では約9%、反対計が賛成計をそれぞれ上回っている。女性では、正社員、正規職員で、反対計が賛成計を約21%上回り、有期契約社員、嘱託社員／パート、アルバイト／派遣社員、及び内職／自ら起業、自営業／自営の家族従業者においても、反対計が賛成計を約6～7%上回っている。一方、仕事をしていない女性については、賛成計が反対計を上回り、その差は約16%となっている。

図 6-27 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである。」という考え方

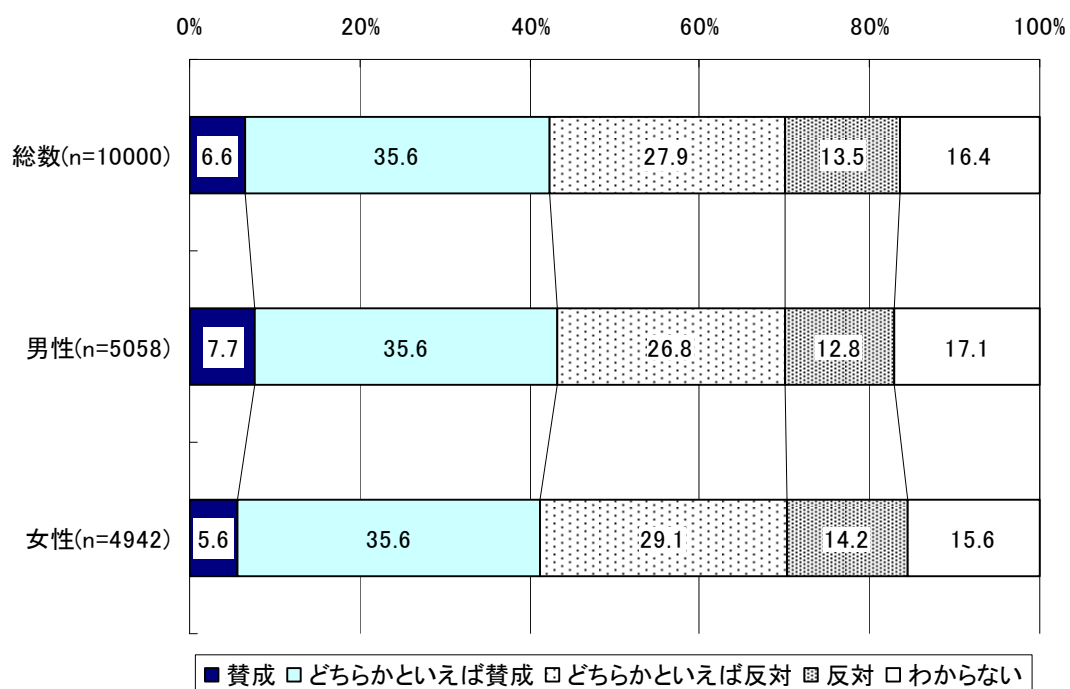
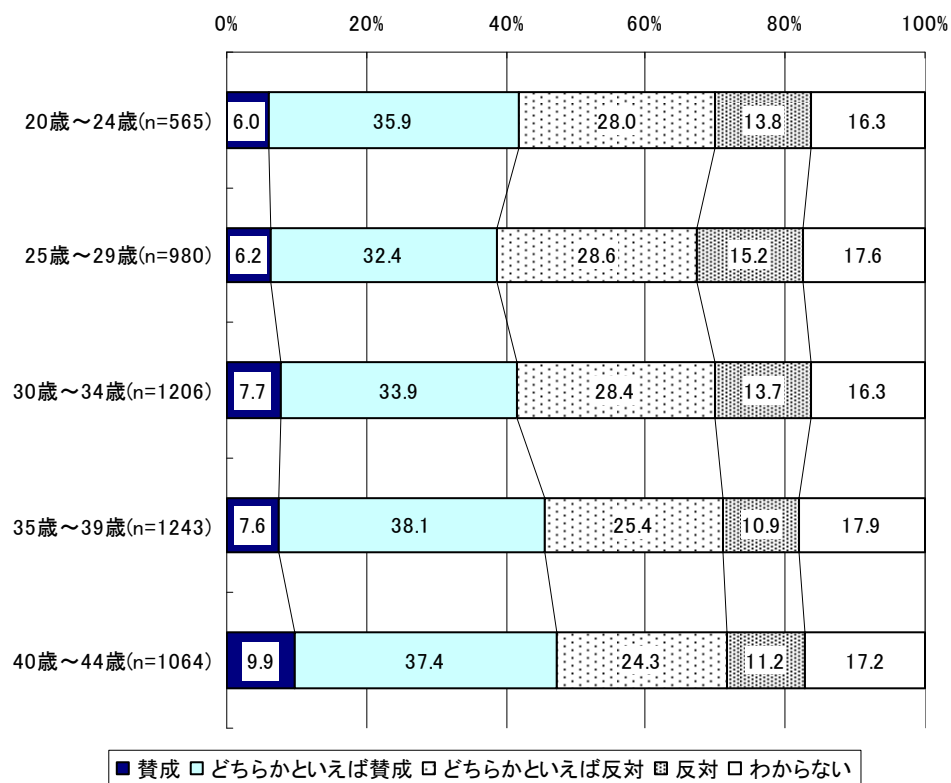
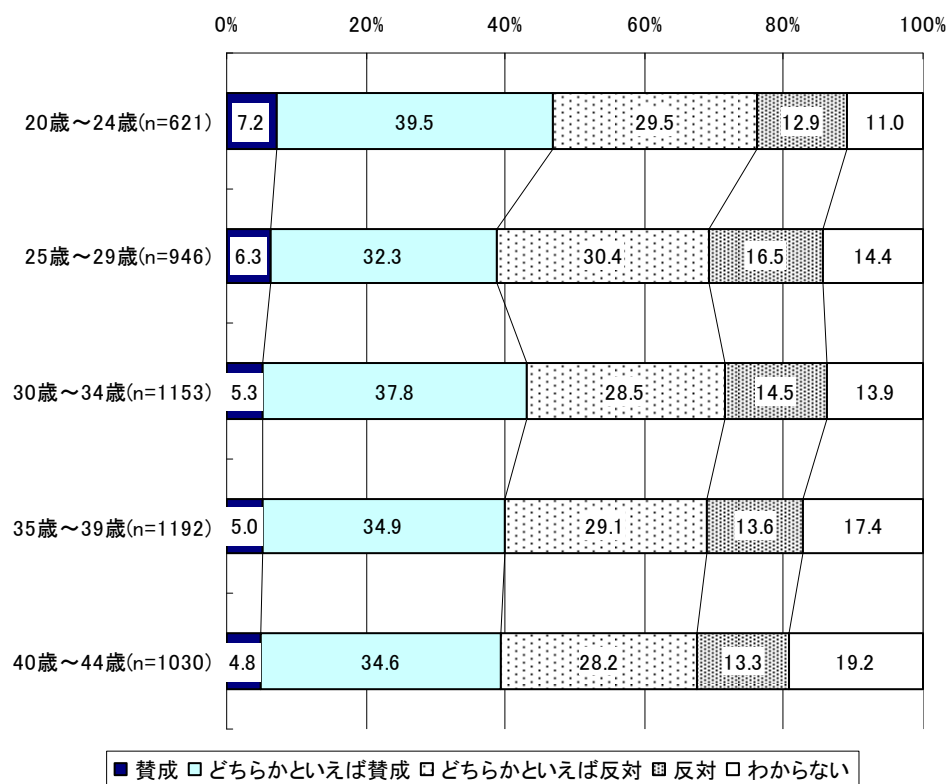


図 6-28 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである。」という考え方
[性・年齢別 男性]



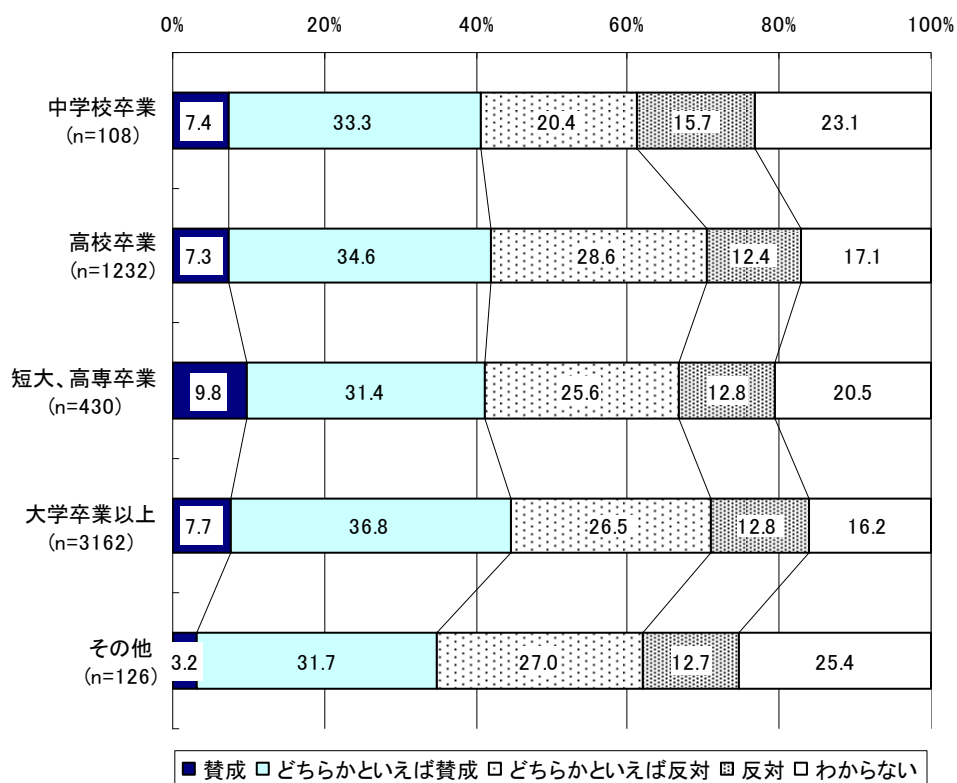
※ この調査では、現在まだ学生で、これまで学校を出て仕事についたことはない人については、調査対象外としており、若年層の結果をみる際には、特に留意が必要である。

図 6-29 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである。」という考え方
[性・年齢別 女性]



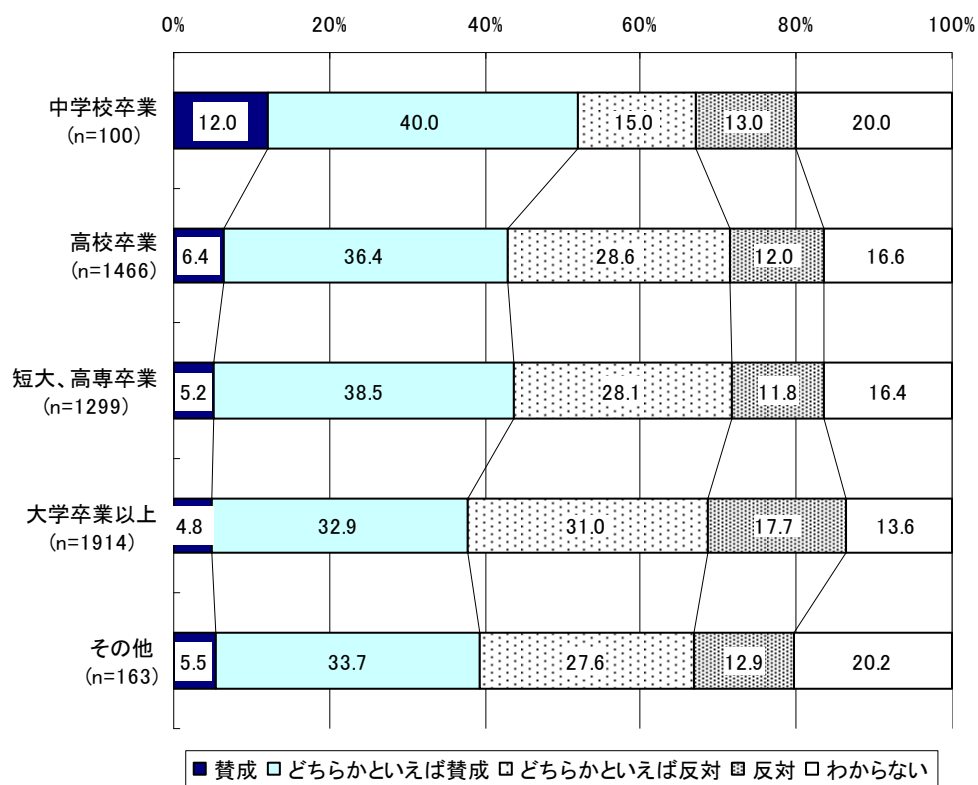
※ この調査では、現在まだ学生で、これまで学校を出て仕事についたことはない人については、調査対象外としており、若年層の結果をみる際には、特に留意が必要である。

図 6-30 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである。」という考え方
[性・教育別 男性]



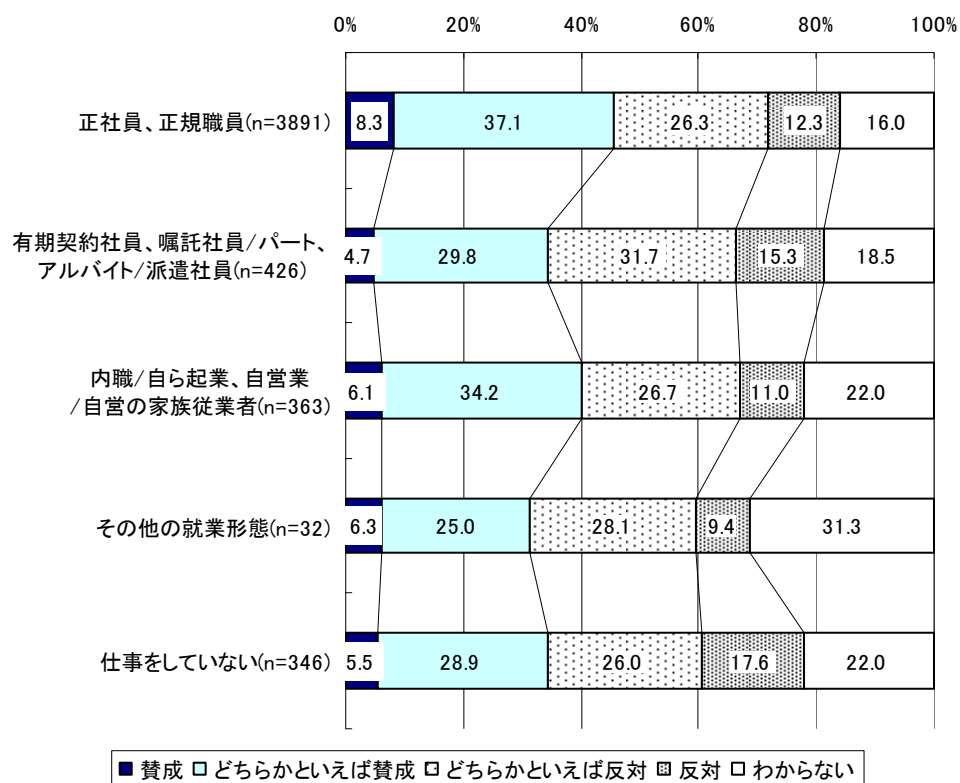
※ Q2-1の回答のうち、「高校中退」は「中学校卒業」に、「短大、高専中退」及び「大学中退」は「高校卒業」にそれぞれ含め、「大学卒業」及び「大学院中退または修了」を「大学卒業以上」として集計している。

図 6-31 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである。」という考え方
[性・教育別 女性]



※ Q2-1の回答のうち、「高校中退」は「中学校卒業」に、「短大、高専中退」及び「大学中退」は「高校卒業」にそれぞれ含め、「大学卒業」及び「大学院中退または修了」を「大学卒業以上」として集計している。

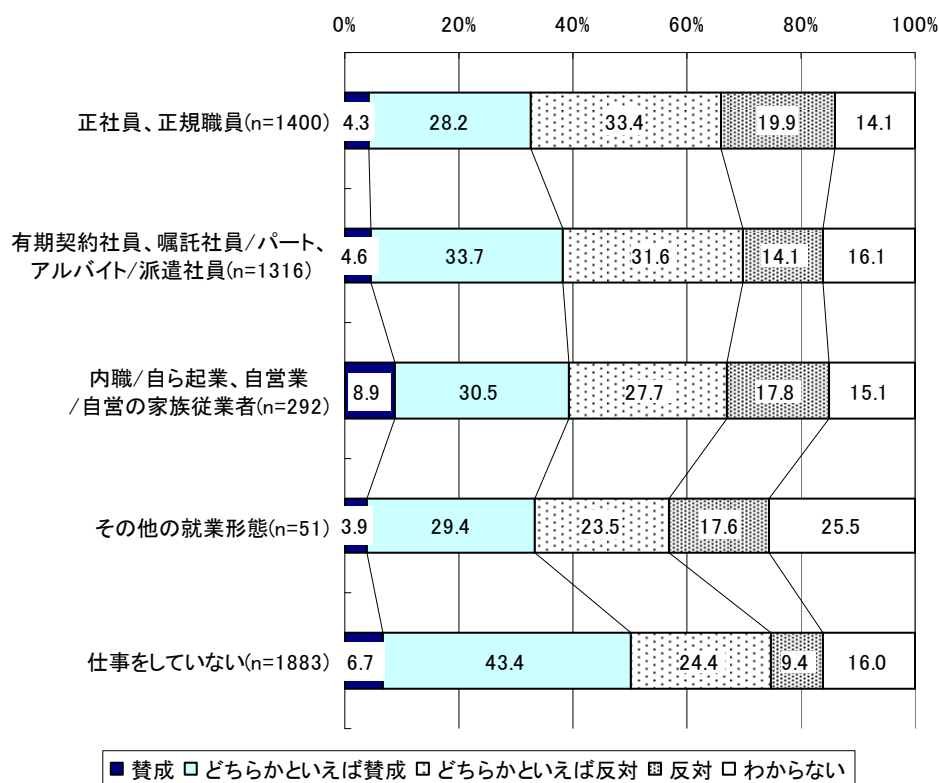
図 6-32 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである。」という考え方
[性・就業状況別 男性]



※ 「その他の就業形態」は Q4-1(現職の就業形態)で「その他」を選択した人であり、「仕事をしていない」は Q2-4(学校を出てからの就業経験)で、「いいえ」(学校を出てから働いたことはない)と回答した人、及び Q3-6(初職からの離職状況)で、「A社を辞めて、現在は仕事をしていない」(初職を辞めて現在は仕事をしていない)と回答した人の合計である。

※ 四捨五入のため、賛成計(「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計)と反対計(「反対」と「どちらかといえば反対」の合計)の差が、本文の記述と一致しない個所がある。

図 6-33 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである。」という考え方
[性・就業状況別 女性]



※ 「その他の就業形態」は Q4-1(現職の就業形態)で「その他」を選択した人であり、「仕事をしていない」は Q2-4(学校を出てからの就業経験)で、「いいえ」(学校を出てから働いたことはない)と回答した人、及び Q3-6(初職からの離職状況)で、「A社を辞めて、現在は仕事をしていない」(初職を辞めて現在は仕事をしていない)と回答した人の合計である。

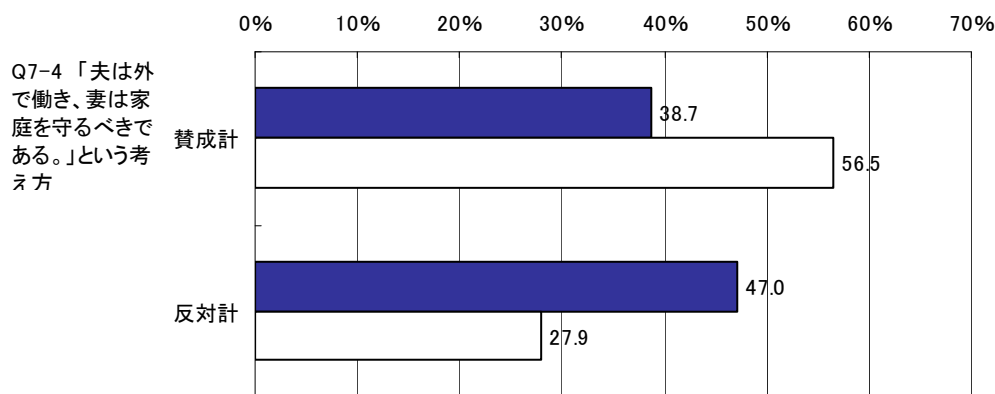
男性について、家庭生活への考え(Q7-3)別に、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである。」という考え方をどう思うかについてみると、「男性のみが働いて世帯の生計を支えることは、負担が重い」について「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」を選択した人(そう思う計)では、「そう思わない」または「どちらかといえばそう思わない」を選択した人(そう思わない計)よりも、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである。」という考え方に対する賛成計(「賛成」または「どちらかといえば賛成である」を選択した人)の割合が、約18%低く、反対計(「反対」または「どちらかといえば反対である」を選択した人)の割合が、約19%高くなっている。

「女性が職業を持って、収入を得ることは重要だ」については、そう思う計で、そう思わない計よりも、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである。」という考え方に対する賛成計の割合が、約28%低く、反対計の割合が、約29%高くなっている。

「女性が家事・育児などの家庭生活と仕事を両立することは難しい」については、そう思う計で、そう思わない計よりも、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである。」という考え方に対する賛成計の割合が、約11%高く、反対計の割合が、約8%低くなっている。

「男性が家事・育児などの家庭生活と仕事を両立することは難しい」については、そう思う計で、そう思わない計よりも「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである。」という考え方に対する賛成計の割合が約17%高く、反対計の割合が約14%低くなっている。

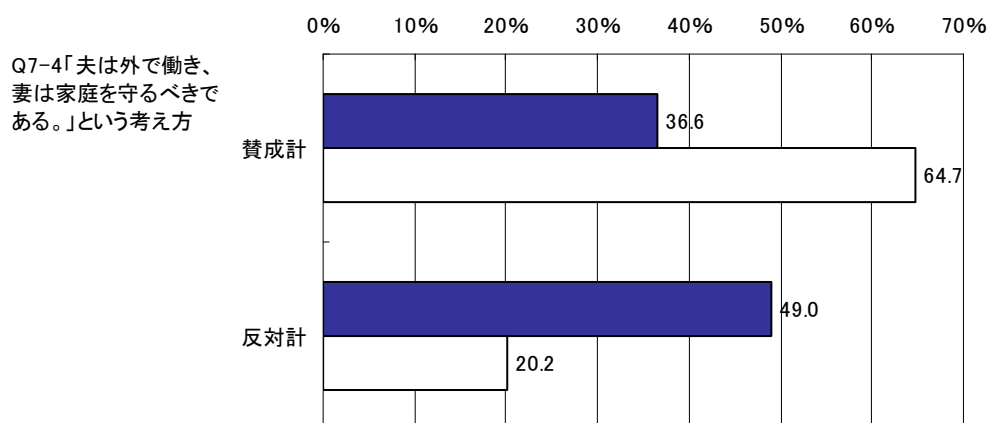
図 6-34 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである。」という考え方
 ／家庭生活への考え(「男性のみが働いて世帯の生計を支えることは、負担が重い」)
 [性別 男性]



Q7-3 「男性のみが働いて世帯の生計を支えることは、負担が重い」

■ そう思う計 (n=3203) □ そう思わない計 (n=1622)

図 6-35 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである。」という考え方
 ／家庭生活への考え(「女性が職業を持って、収入を得ることは重要だ」)
 [性別 男性]



Q7-3 「女性が職業を持って、収入を得ることは重要だ」

■ そう思う計 (n=3444) □ そう思わない計 (n=1295)

図 6-36 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである。」という考え方
 ／家庭生活への考え(「女性が家事・育児などの家庭生活と
 仕事を両立することは難しい」)
 [性別 男性]

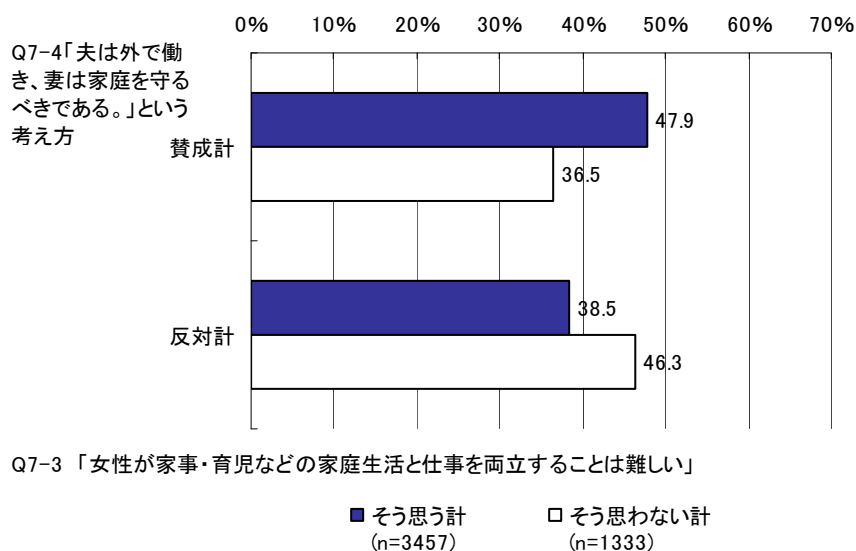
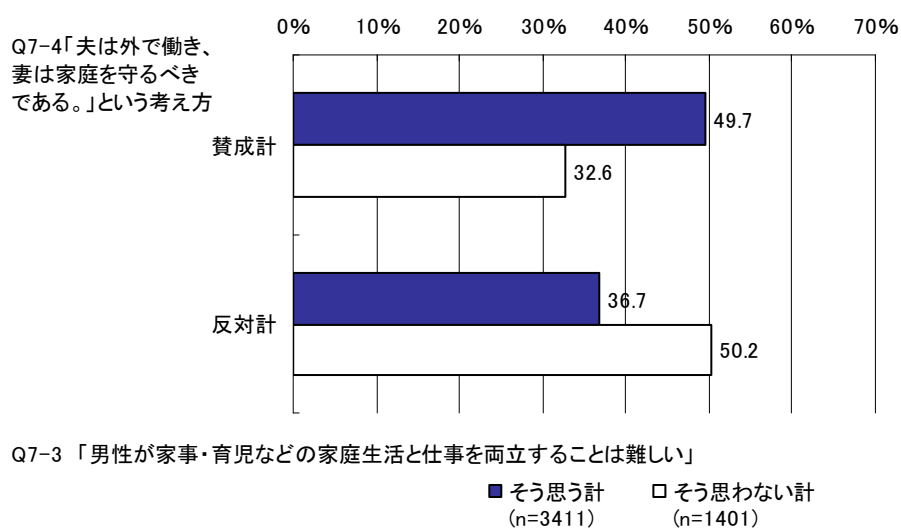


図 6-37 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである。」という考え方
 ／家庭生活への考え(「男性が家事・育児などの家庭生活と
 仕事を両立することは難しい」)
 [性別 男性]



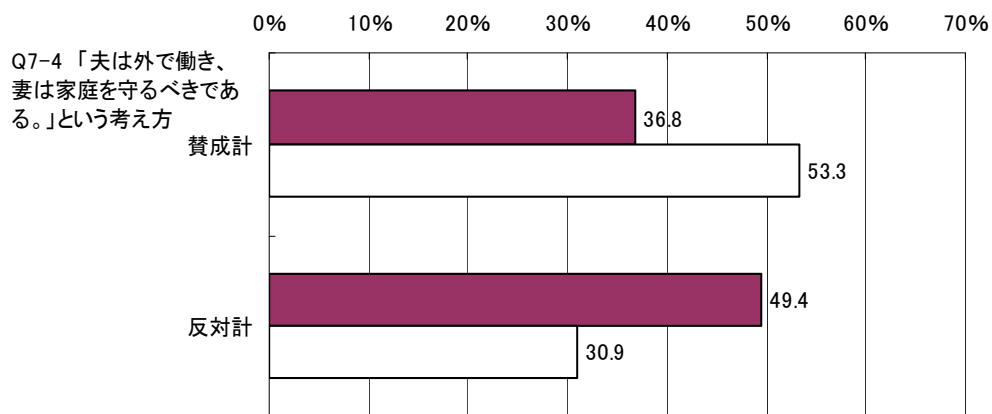
女性について、家庭生活への考え(Q7-3)別に、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである。」という考え方をどう思うかについてみると、「男性のみが働いて世帯の生計を支えることは、負担が重い」について「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」を選択した人(そう思う計)では、「そう思わない」または「どちらかといえばそう思わない」を選択した人(そう思わない計)よりも、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである。」という考え方に対する賛成計(「賛成」または「どちらかといえば賛成である」を選択した人)の割合が、約17%低く、反対計(「反対」または「どちらかといえば反対である」を選択した人)の割合が、約19%高くなっている。

「女性が職業を持って、収入を得ることは重要だ」については、そう思う計で、そう思わない計よりも、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである。」という考え方に対する賛成計の割合が、約33%低く、反対計の割合が、約33%高くなっている。

「女性が家事・育児などの家庭生活と仕事を両立することは難しい」については、そう思う計で、そう思わない計よりも、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである。」という考え方に対する賛成計の割合が、約14%高く、反対計の割合が、約13%低くなっている。

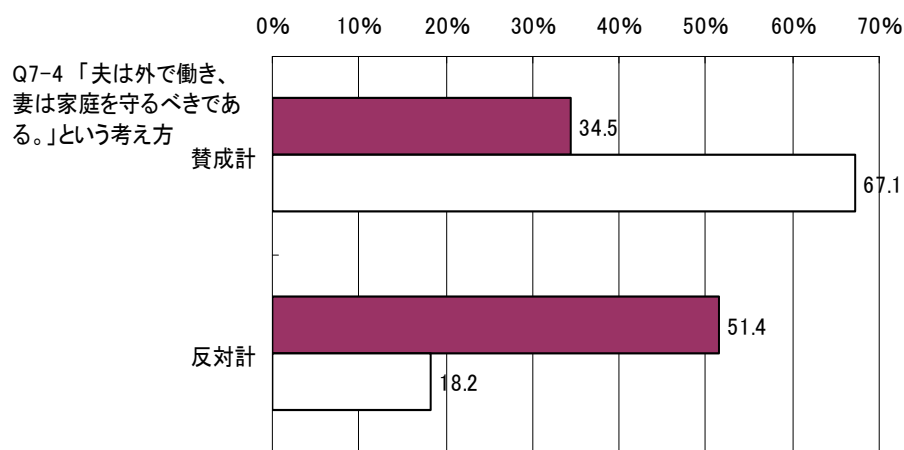
「男性が家事・育児などの家庭生活と仕事を両立することは難しい」については、そう思う計で、そう思わない計よりも「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである。」という考え方に対する賛成計の割合が、約16%高く、反対計の割合が、約18%低くなっている。

図 6-38 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである。」という考え方
 ／家庭生活への考え(「男性のみが働いて世帯の生計を
 支えることは、負担が重い」)
 [性別 女性]



Q7-3 「男性のみが働いて世帯の生計を支えることは、負担が重い」
 ■ そう思う計 (n=3359) □ そう思わない計 (n=1422)

図 6-39 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである。」という考え方
 ／家庭生活への考え(「女性が職業を持って、収入を得る
 ことは重要だ」)
 [性別 女性]



Q7-3 「女性が職業を持って、収入を得ることは重要だ」
 ■ そう思う計 (n=3724) □ そう思わない計 (n=992)

図 6-40 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである。」という考え方
 ／家庭生活への考え(「女性が家事・育児などの家庭生活と
 仕事を両立することは難しい」)
 [性別 女性]

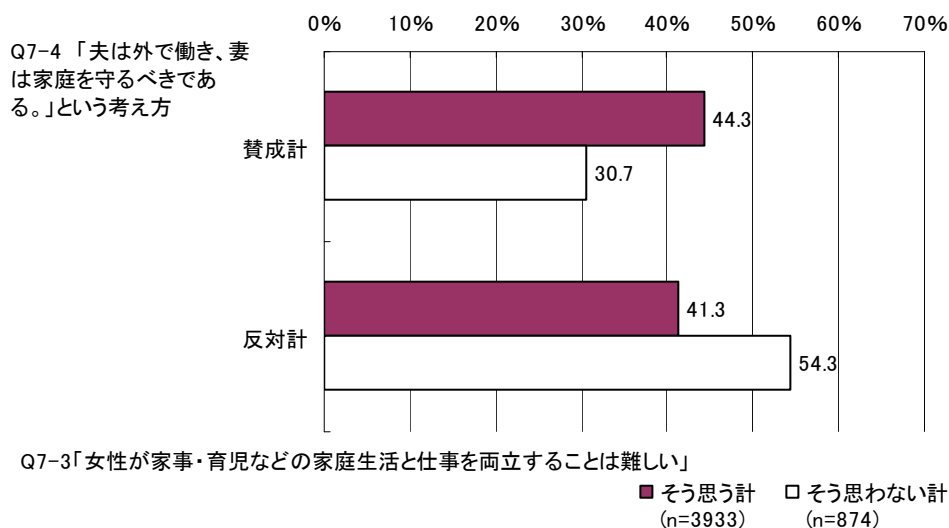
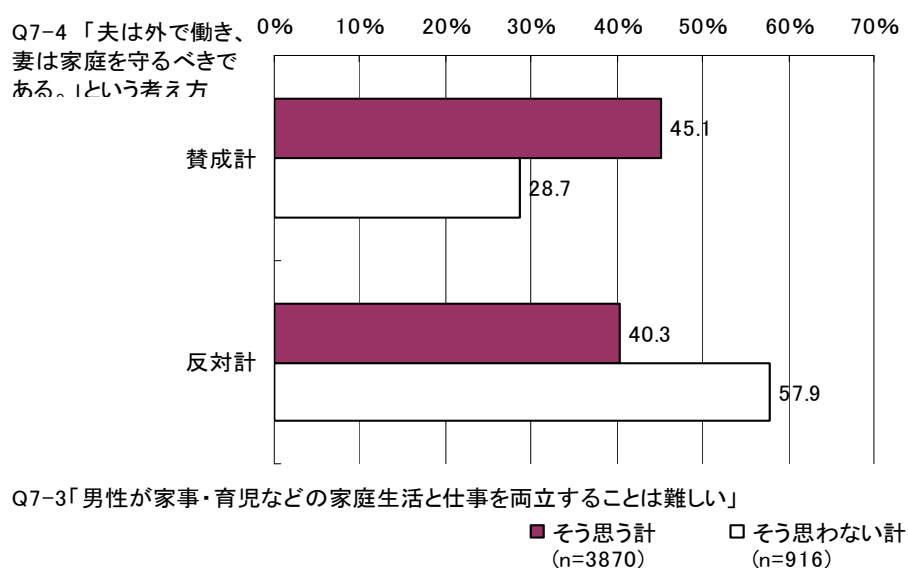


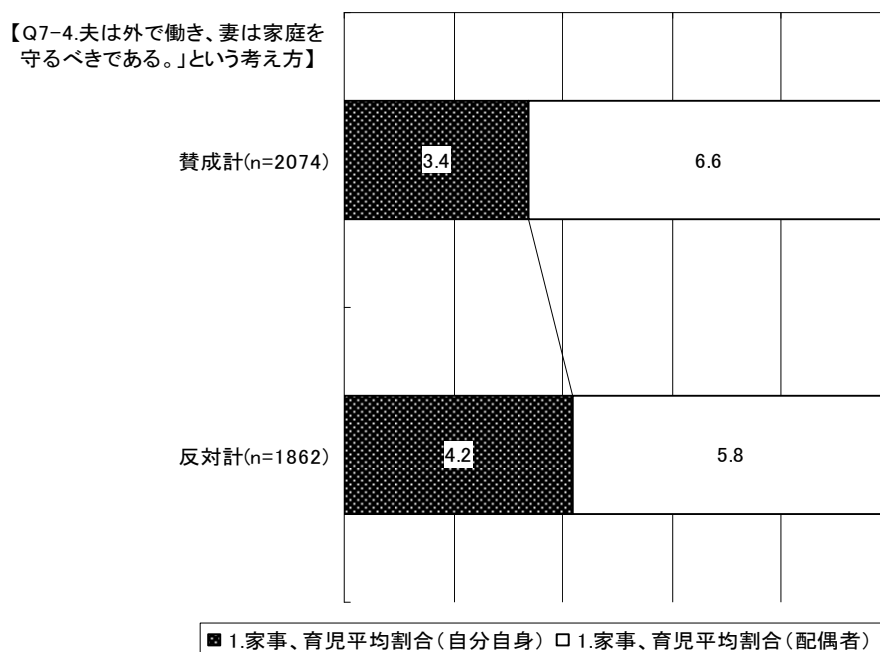
図 6-41 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである。」という考え方
 ／家庭生活への考え(「男性が家事・育児などの家庭生活と
 仕事を両立することは難しい」)
 [性別 女性]



男性について、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである。」という考え方への賛成・反対別に Q6-3 配偶者との理想の役割分担(自分自身と配偶者で合計が 10 になるよう選択した数字)をみると、家事・育児に関する負担割合の平均値(家事、育児平均割合)は、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである。」という考え方に「賛成」または「どちらかといえば賛成」(賛成計)とした人で、自分自身について 3.4 であるのに対し、「反対」または「どちらかといえば反対」(反対計)とした人で自分自身について 4.2 となっている。生計を立てるために収入を得ることに関する負担割合の平均値(生計を立てるため収入を得る平均割合)は、賛成計で、自分自身について 8.2 であるのに対し、反対計で、自分自身について 6.9 となっている。

図 6-42 配偶者との理想の役割分担(家事、育児)

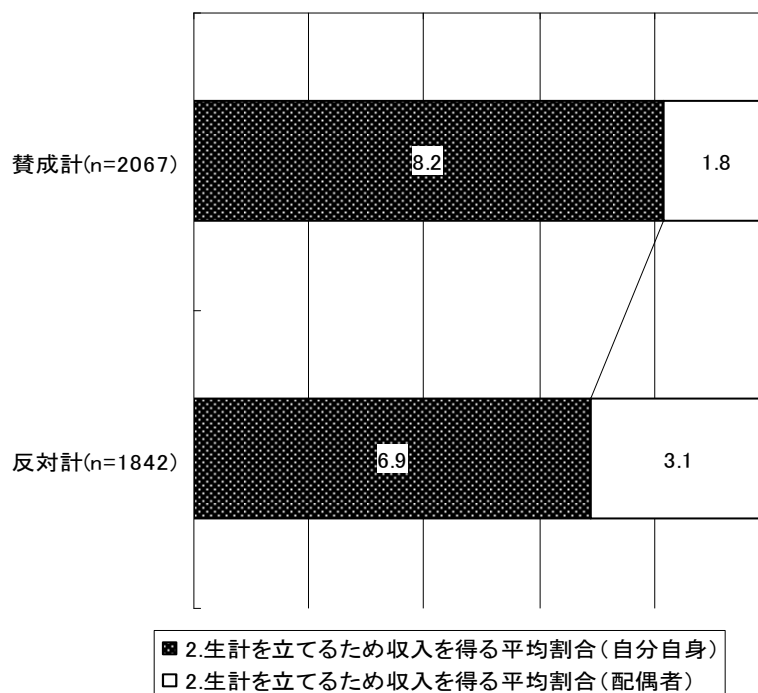
／「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである。」という
 考え方への賛成・反対別
 [性別 男性]



※ 平均割合は、Q6-3(配偶者との理想の役割分担(1.家事・育児))で「わからない」を選択した人を除いて算出している。

図 6-43 配偶者との理想の役割分担(生計を立てるために収入を得る)
 ／「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである。」という
 考え方への賛成・反対別
 [性別 男性]

【Q7-4.夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである。」という考え方】

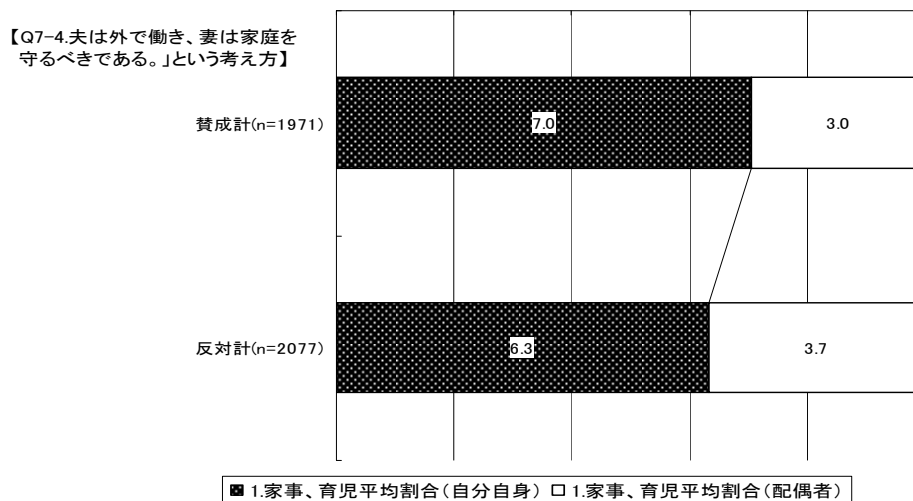


※ 平均割合は、Q6-3(配偶者との理想の役割分担(2. 生計を立てるため収入を得る))で「わからない」を選択した人を除いて算出している。

女性について、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである。」という考え方への賛成・反対別に Q6-3 配偶者との理想の役割分担(自分自身と配偶者で合計が 10 になるよう選択した数字)をみると、家事・育児に関する負担割合の平均値(家事、育児平均割合)は、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである。」という考え方に「賛成」または「どちらかといえば賛成」(賛成計)とした人で、自分自身について 7.0 であるのに対し、「反対」または「どちらかといえば反対」(反対計)とした人で、自分自身について 6.3 となっている。生計を立てるために収入を得ることに関する負担割合の平均値(生計を立てるため収入を得る平均割合)は、賛成計で、自分自身について 2.4 であるのに対して、反対計で、自分自身について 3.4 となっている。

図 6-44 配偶者との理想の役割分担(家事、育児)

／「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである。」という
考え方への賛成・反対別[性別 女性]

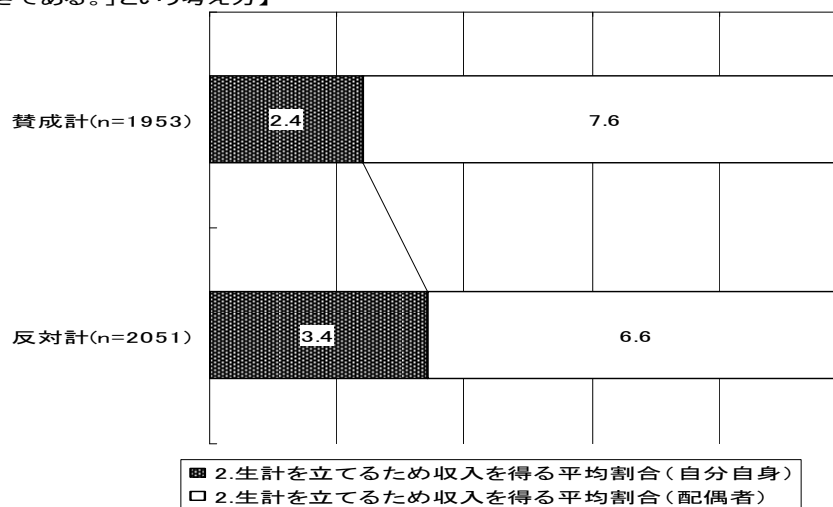


※ 平均割合は、Q6-3(配偶者との理想の役割分担(1.家事・育児))で「わからない」を選択した人を除いて算出している。

図 6-45 配偶者との理想の役割分担(生計を立てるために収入を得る)

／「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである。」という
考え方への賛成・反対別 [性別 女性]

【Q7-4.夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである。」という考え方】



※ 平均割合は、Q6-3(配偶者との理想の役割分担(2.生計を立てるため収入を得る))で「わからない」を選択した人を除いて算出している。

(5) 仕事以外の生活の満足度

Q7-5. あなたは、日ごろ、仕事以外の生活について、どのように感じていますか。(ひとつだけ)

日ごろ、仕事以外の生活について、どのように感じているかについて、性別にみると、男女とも、「どちらかといえば満足している」という意見が最も多く、約5割となっている。また、「満足している」と「どちらかといえば満足している」の合計(満足計)は、女性(64.3%)が、男性(59.5%)を上回っている。

性・婚姻状況別にみると、配偶者のいる男性では、満足計が、結婚したことはない男性よりも約24%高くなっている。配偶者のいる女性については、満足計は、結婚したことはない女性よりも約8%高くなっている。

性・就業状況別にみると、男性では、正社員、正規職員で満足計が63.4%と6割を超えているのに対し、仕事をしていない人では32.4%となっている。

図 6-46 仕事以外の生活の満足度

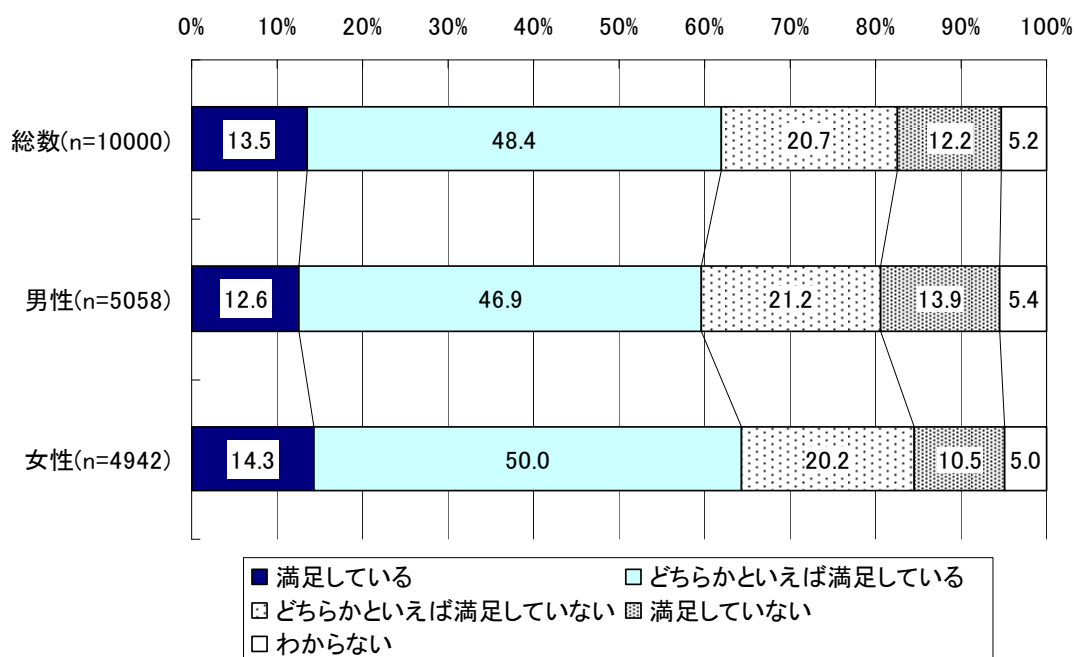


図 6-47 仕事以外の生活の満足度[性・婚姻状況別 男性]

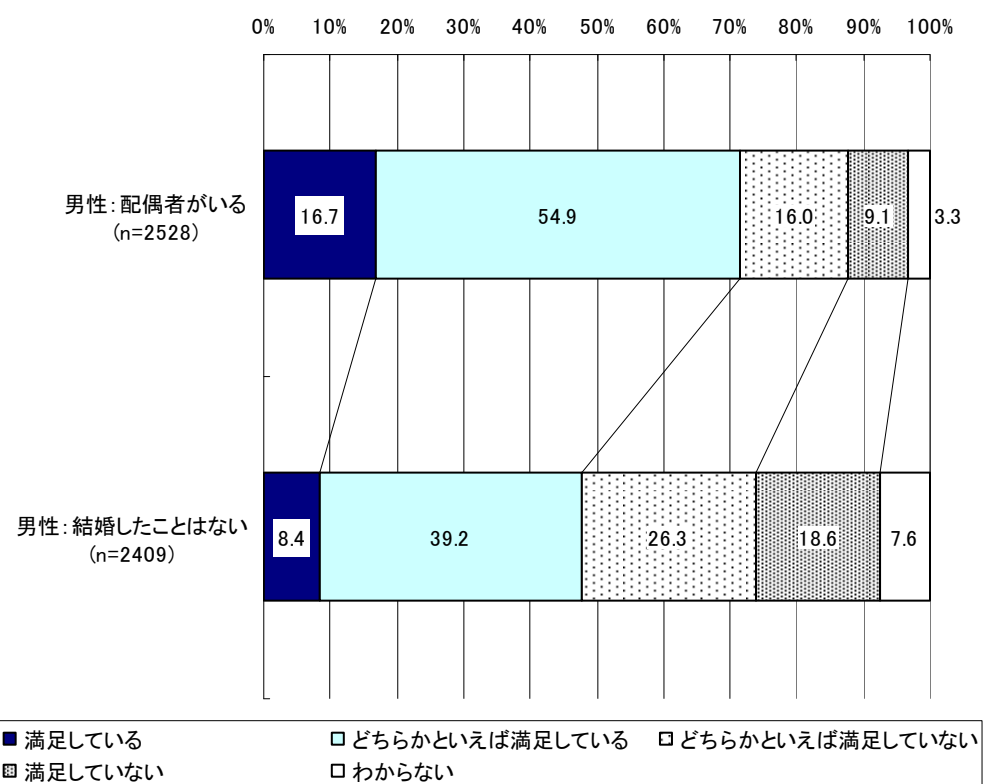


図 6-48 仕事以外の生活の満足度[性・婚姻状況別 女性]

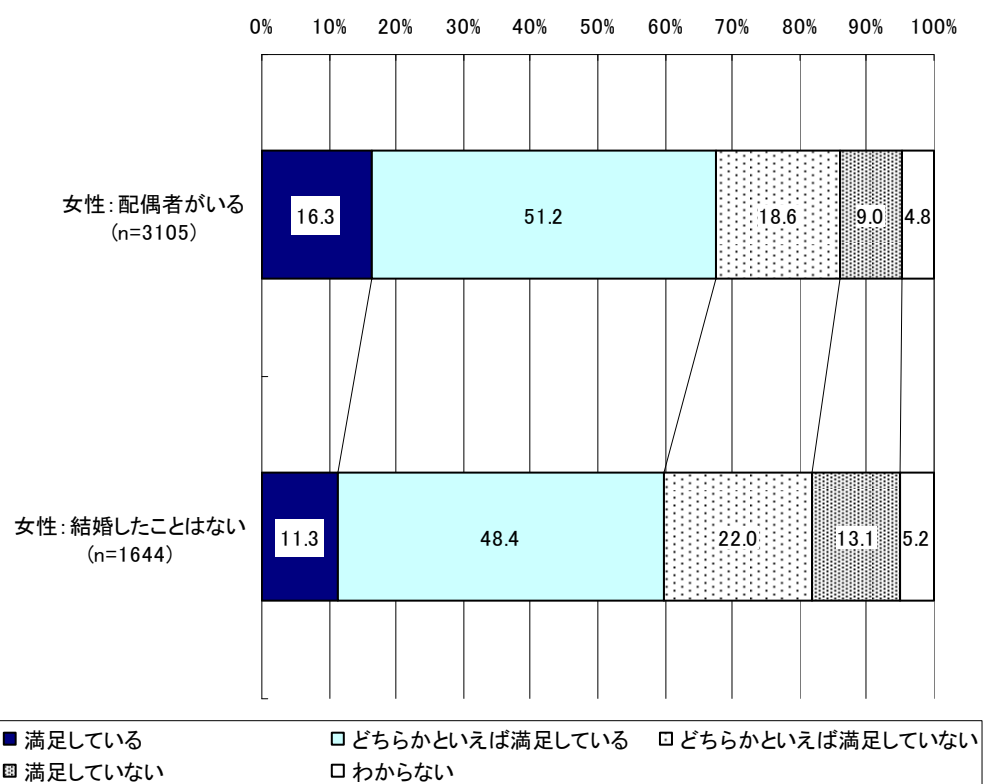
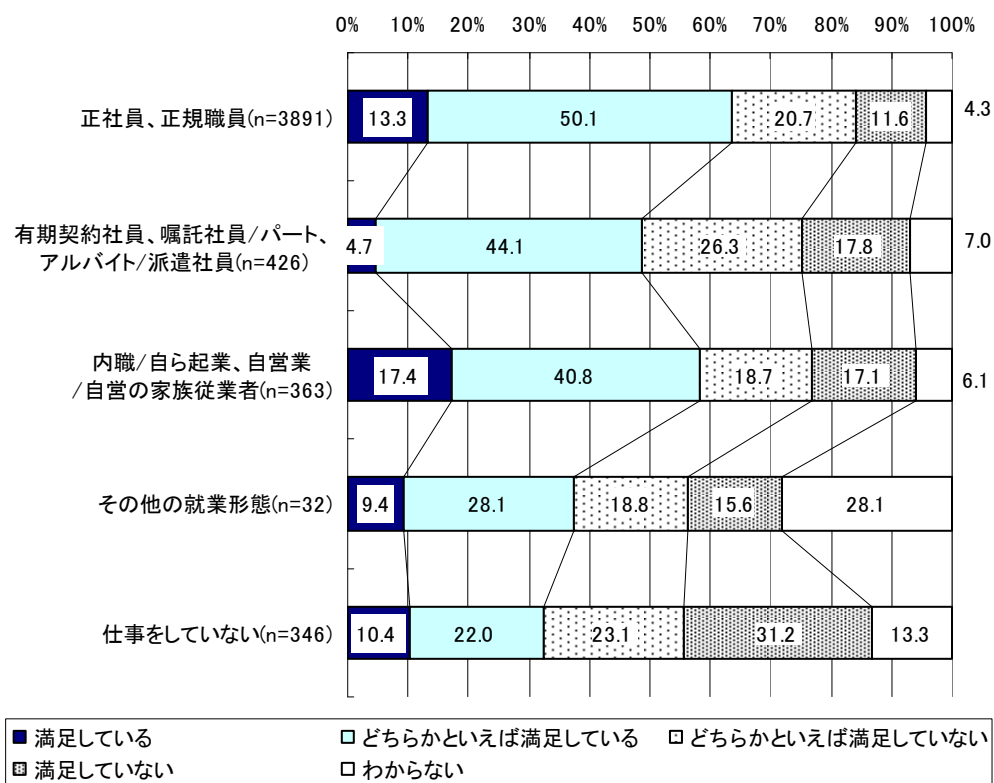
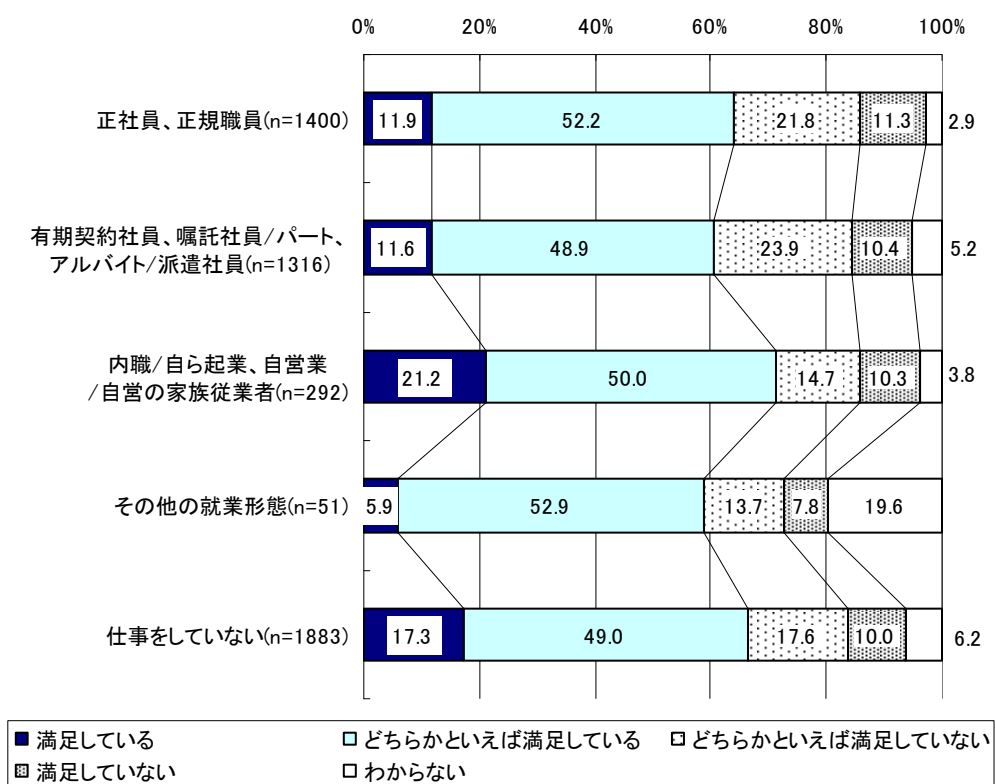


図 6-49 仕事以外の生活の満足度[性・就業状況別 男性]



※ 「その他の就業形態」は Q4-1(現職の就業形態)で「その他」を選択した人であり、「仕事をしていない」は Q2-4(学校を出てからの就業経験)で、「いいえ」(学校を出てから働いたことはない)と回答した人、及び Q3-6(初職からの離職状況)で、「A社を辞めて、現在は仕事をしていない」(初職を辞めて現在は仕事をしていない)と回答した人の合計である。

図 6-50 仕事以外の生活の満足度[性・就業状況別 女性]



※ 「その他の就業形態」は Q4-1(現職の就業形態)で「その他」を選択した人であり、「仕事をしていない」は Q2-4(学校を出てからの就業経験)で、「いいえ」(学校を出てから働いたことはない)と回答した人、及び Q3-6(初職からの離職状況)で、「A社を辞めて、現在は仕事をしていない」(初職を辞めて現在は仕事をしていない)と回答した人の合計である。

(6) 現在の悩み・不安

Q7-6. あなたは現在、悩みや不安を感じていますか。(いくつでも)

現在の悩みや不安について性別にみると、男女とも、「将来、安定した収入を得られないのではないかということ」が男性で49.1%、女性で49.0%と最も多い。次いで、男性では、「自分の健康に不安があること」が28.8%「仕事が見つからなかったり、現在の仕事の収入が低く、十分な収入が得られないこと」が25.1%となっており、女性では、「仕事が見つからなかったり、現在の仕事の収入が低く、十分な収入が得られないこと」が28.0%、「自分の健康に不安があること」が27.7%となっている。「仕事と、家事や育児、介護など家庭生活との両立が難しいこと」は女性で22.3%と男性よりも約9%高くなっており、「仕事と、自己啓発や地域活動など仕事以外のやりたいこととの両立が難しいこと」は、男性で18.9%と女性よりも約7%高くなっている。

性・就業状況別にみると、男性では、「自分の健康に不安があること」が仕事をしていない人で40.8%と他の就業状況に比べ高くなっている。また、「仕事が見つからなかったり、現在の仕事の収入が低く、十分な収入が得られないこと」は、仕事をしていない人で54.6%、有期契約社員、嘱託社員／パート、アルバイト／派遣社員で50.2%と5割を超え、他の就業状況に比べ高くなっている。「将来、安定した収入を得られないのではないかということ」は、有期契約社員、嘱託社員／パート、アルバイト／派遣社員で66.2%、仕事をしていない人で60.4%、内職／自ら起業、自営業／自営の家族従業者で60.3%といずれも6割を超え、他の就業状況に比べ高くなっている。「仕事と、家事や育児、介護など家庭生活との両立が難しいこと」は、正社員、正規職員で14.8%と他の就業状況に比べ高くなっている。

女性では、「仕事が見つからなかったり、現在の仕事の収入が低く、十分な収入が得られないこと」は、有期契約社員、嘱託社員／パート、アルバイト／派遣社員で38.8%と他の就業状況に比べて高くなっている。「将来、安定した収入を得られないのではないかということ」は、有期契約社員、嘱託社員／パート、アルバイト／派遣社員で61.2%、内職／自ら起業、自営業／自営の家族従業者で56.5%と他の就業状況に比べて高くなっている。「ずっと一人で暮らしていくのではないかということ」は、正社員、正規職員で26.1%と他の就業状況に比べ高くなっており、「現在、特に悩みや不安はない」は、仕事をしていない人で20.4%と他の就業状況に比べて高くなっている。

性・婚姻状況別にみると、男女とも、配偶者がいる人は、「仕事と、家事や育児、介護など家庭生活との両立が難しいこと」、「現在、特に悩みや不安はない」が結婚したことはない人よりも高くなっている。

男性では、結婚したことはない人は、「自分の健康に不安があること」、「仕事が見つからなかったり、現在の仕事の収入が低く、十分な収入が得られないこと」、「将来、安定した収入を得られないのではないかということ」、「ずっと一人で暮らしていくのではないかということ」、「相談にのってくれる人がまわりにいないこと」のいずれも、配偶者がいる人よりも高くなっている。

女性では、結婚したことはない人は、「自分の健康に不安があること」、「家族の中に、健康上の問題があったり、介護を必要とする人がいること」、「仕事が見つからなかったり、現在の仕事の収入が低く、十分な収入が得られないこと」、「将来、安定した収入を得られないのではないかということ」、「仕事と、自己啓発や地域活動など仕事以外のやりたいことの両立が難しいこと」、「ずっと一人で暮らしていくのではないかということ」のいずれも、配偶者がいる人よりも高くなっている。

図 6-51 現在の悩み・不安

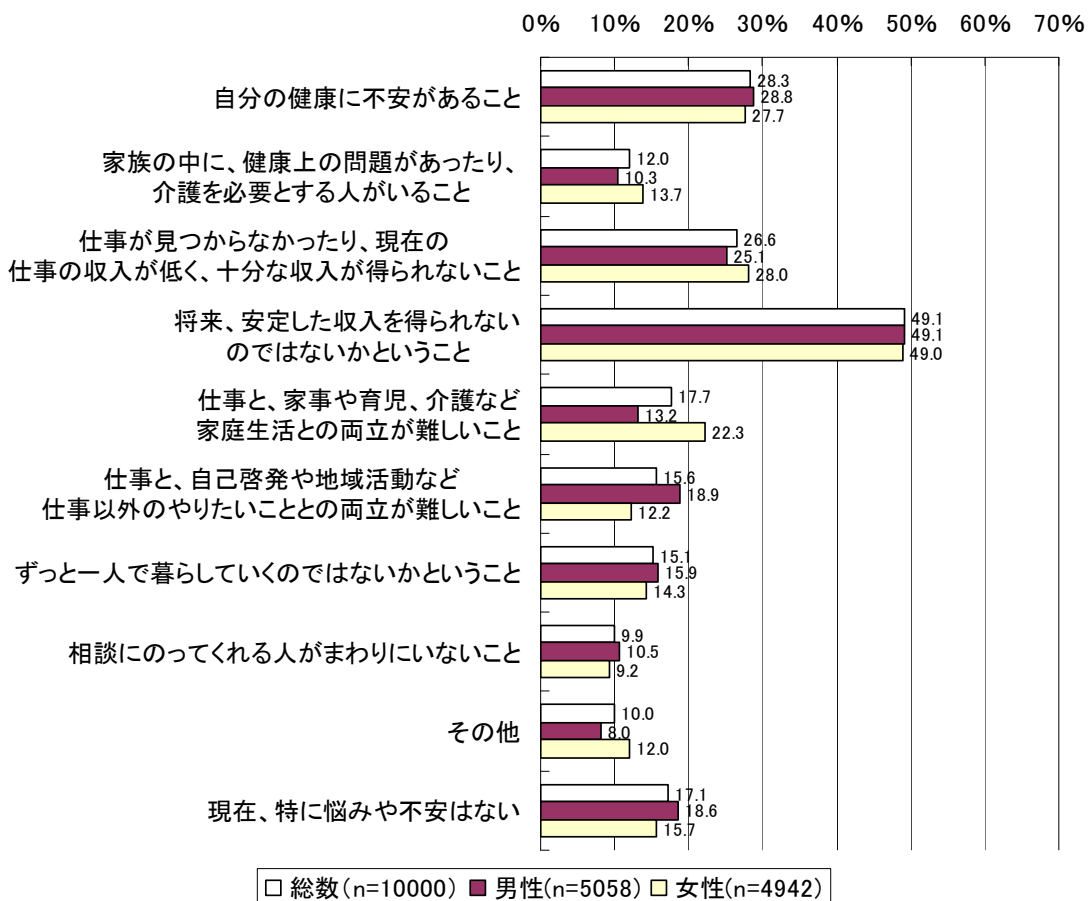
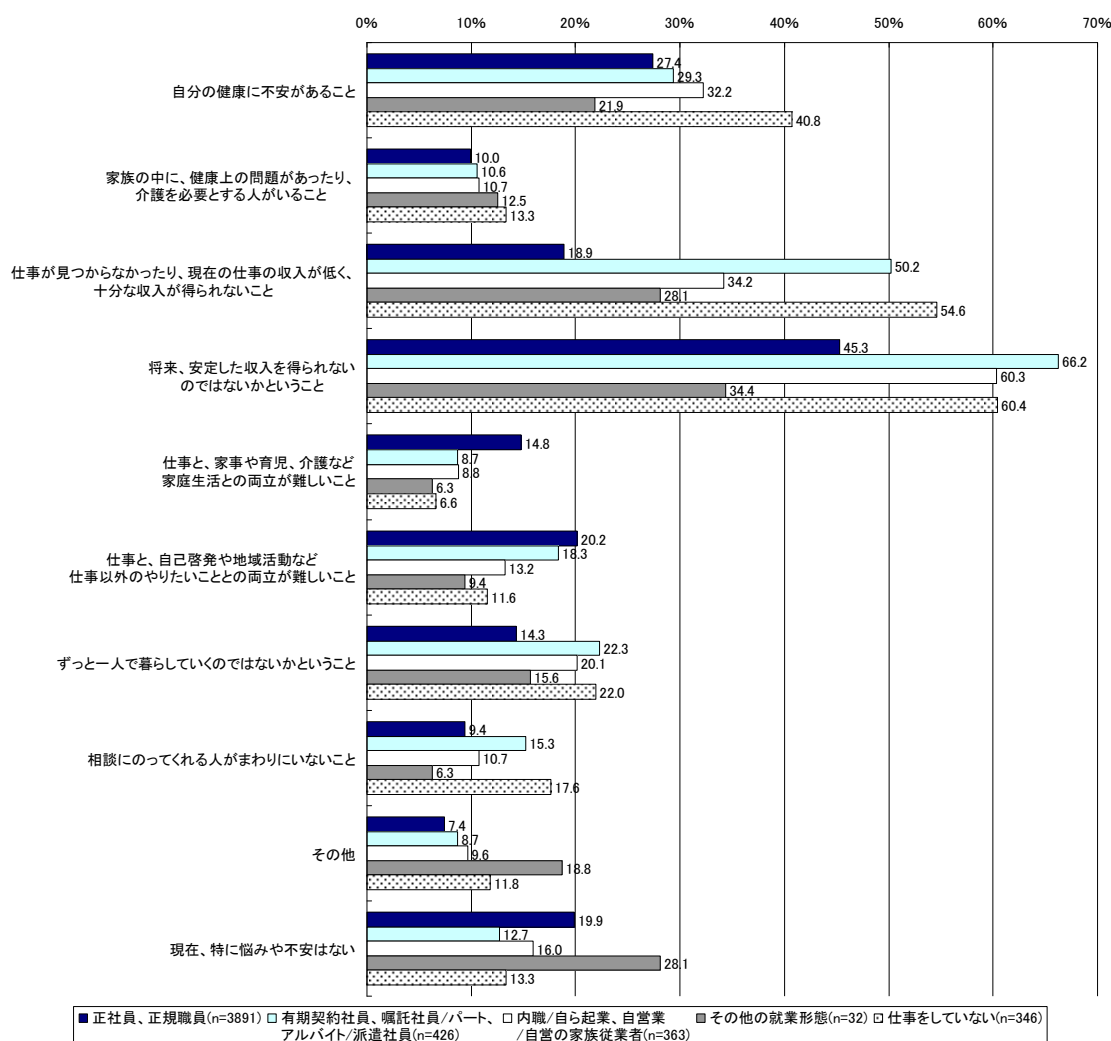
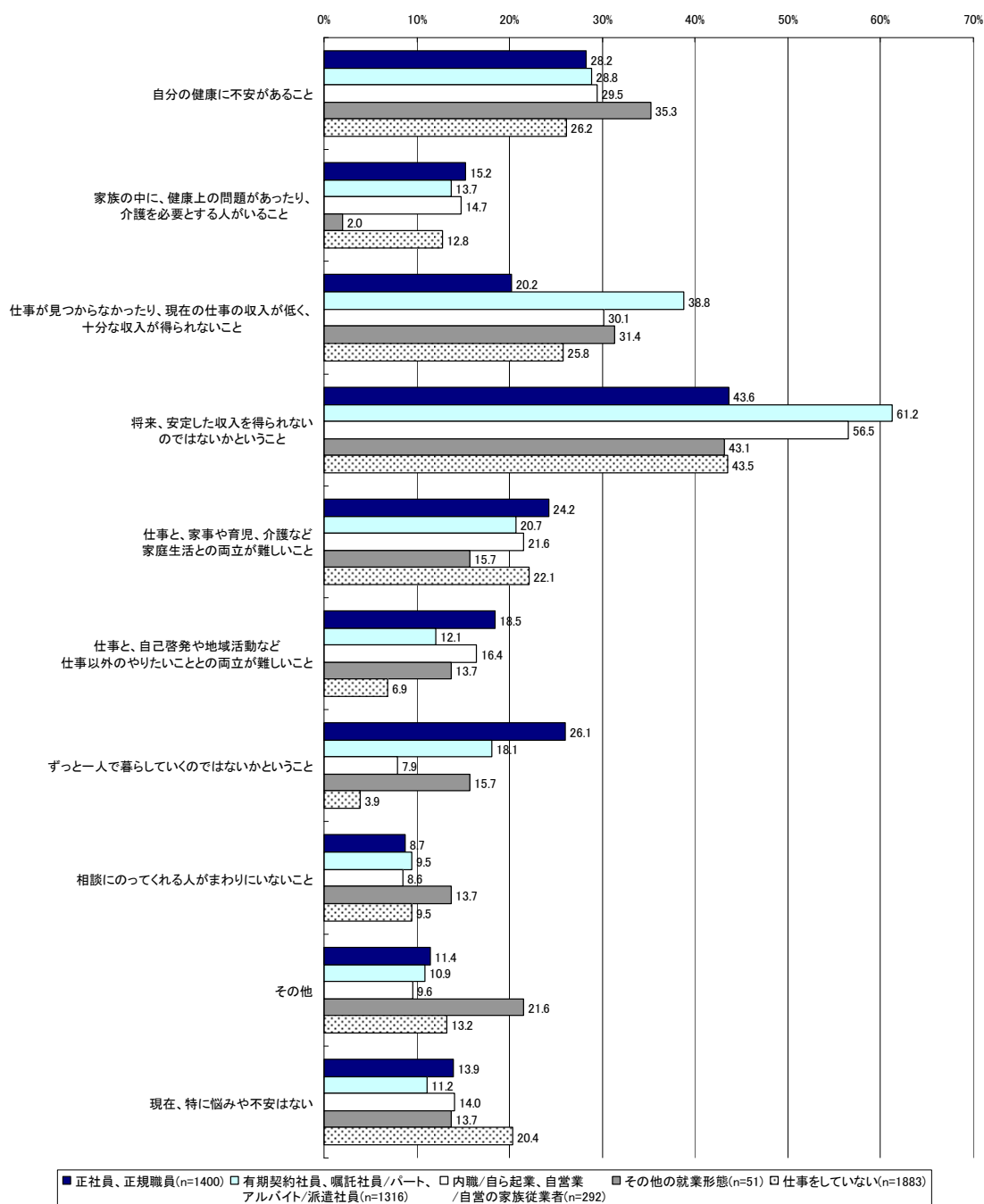


図 6-52 現在の悩み・不安[性・就業状況別 男性]



※ 「その他の就業形態」は Q4-1(現職の就業形態)で「その他」を選択した人であり、「仕事をしていない」は Q2-4(学校を出てからの就業経験)で、「いいえ」(学校を出てから働いたことはない)と回答した人、及び Q3-6(初職からの離職状況)で、「A社を辞めて、現在は仕事をしていない」(初職を辞めて現在は仕事をしていない)と回答した人の合計である。

図 6-53 現在の悩み・不安[性・就業状況別 女性]



※ 「その他の就業形態」は Q4-1(現職の就業形態)で「その他」を選択した人であり、「仕事をしていない」は Q2-4(学校を出てからの就業経験)で、「いいえ」(学校を出てから働いたことはない)と回答した人、及び Q3-6(初職からの離職状況)で、「A社を辞めて、現在は仕事をしていない」(初職を辞めて現在は仕事をしていない)と回答した人の合計である。

図 6-54 現在の悩み・不安[性・婚姻状況別 男性]

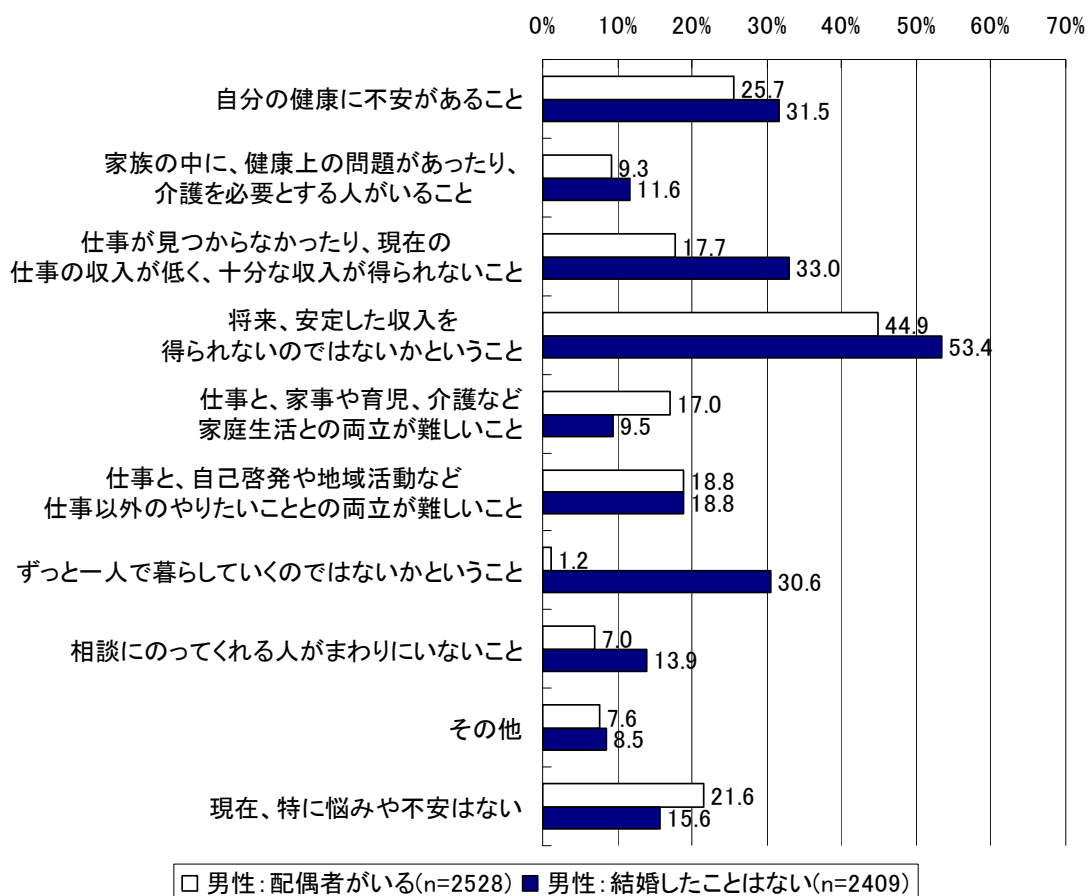


図 6-55 現在の悩み・不安[性・婚姻状況別 女性]

